2011

# Annual Report

ヴァヌアツ共和国　タンナ島

Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

# Contents


代表理事挨拶 ..... 1
活動地域紹介 ..... 2
海外活動報告 ..... 4
　7月ヴァヌアツ共和国　マレクラ島 ..... 4
　7月ヴァヌアツ共和国　タンナ島 ..... 6
　11 月フィリピン共和国 ..... 9
　2 月フィリピン共和国 ..... 12
海外活動参加者の声 ..... 17
国際交流 ..... 29
　八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流 ..... 29
寄付活動 ..... 33
国内活動 ..... 34
東日本大震災活動報告書 ..... 36
学術報告 ..... 41
ジャパン　デンタル　ミッションについて ..... 46
協力者名簿 ..... 47
２０１２年度海外活動予定 ..... 48
理事紹介 ..... 49

フィリピン共和国　カオハガン島

# 代表理事挨拶

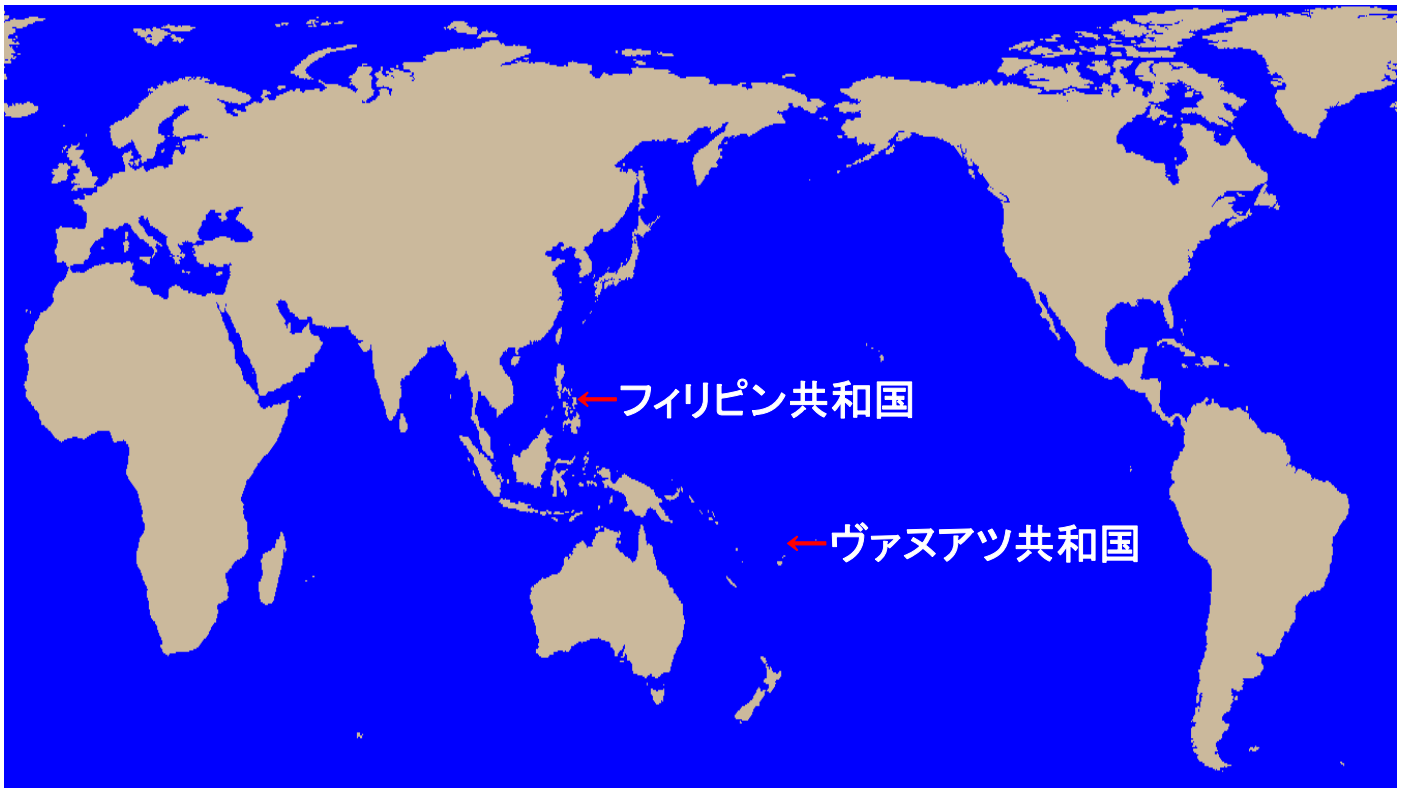
東日本大震災から一年が経ち、少しずつ復旧、復興が進んでおります。しかしながら、未だに手つかずのまま残された被災地も少なくありません。JDM では有志のメンバーがそれぞれの立場で被災地に赴き、歯科のボランティア活動（主訴の応急処置、デンチャー修理、口腔ケア、口腔検診等）に止まらず、瓦礫の撤去作業や避難所での仮設風呂の設置等の活動をいたしました。このように、海外のみならず国内においても積極的にマンパワーを発揮しています。

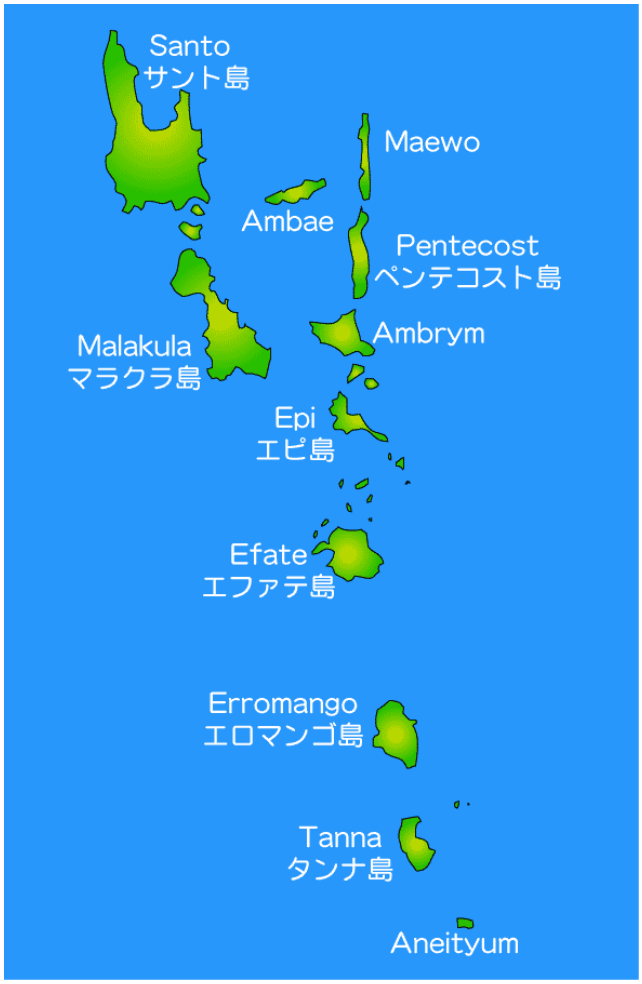
ヴァヌアツでは、同国保健省並びに教育省と JDM 間で今後の活動についてミーティングを実施しています。2010～2015 年における保健省の活動方針として、同保健省、教育省、WHO と JDM の共同参画で口腔衛生啓蒙と歯科教育活動が行われる旨が明記されています。
29 年に亘る私たちの地道な活動の継続がヴァヌアツ政府に評価されていることを実感しています。ヴァヌアツでは雨季と乾季がそれぞれ半年続きます。乾季には全く雨の降らない日が続き、歯は及ばず手を洗うことも困難となり、水がとても貴重な存在となります。
乾季におけるこのような非衛生的な現状を改善すべく、WHO は昨年、ウオッシュプロジェクト（手洗いの習慣づけ）を立ち上げました。JDM はヴァヌアツ政府の協力要請に応じ、どのような貢献ができるかを検討した結果、ウオータータンクの設置を考えています。これらは口腔衛生の向上と感染予防に役立つものと期待しています。
フィリピンでは、カオハガン島のエッジ・ナノイという女性がセブ島にあるセブドクター大学に入学しました。幼い頃より JDM の診療活動を目にしていた彼女は、自らも歯科医師となって島の人々に貢献したい、という思いで日々勉学に励んでいます。近い将来、島出身の歯科医師が誕生し、活躍してくれることを期待しています。
また、ラプラプ市を表敬訪問した際、JDM の 15 年間の活動に対し、同市長より感謝状を頂きました。

私たちがこのように活動できるのも、日頃よりご協力くださる方々のご支援と JDM の会員諸氏のお蔭と深く感謝いたしております。
これからも、ヴァヌアツ、フィリピン両国とは、より良きパートナーシップを築き、口腔衛生の更なる啓蒙と歯科教育及び予防の発展の為、貢献していく所存です。

代表理事　沢田　宗久

# 活動地域紹介



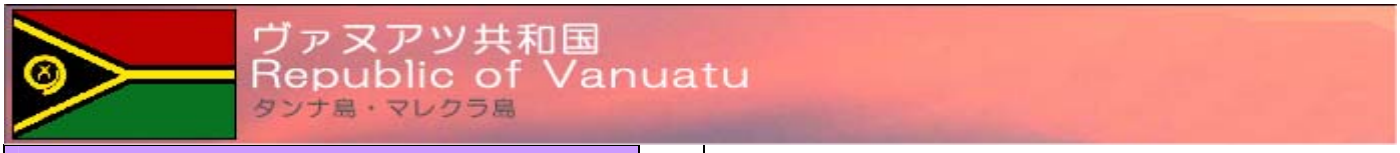

## ヴァヌアツ共和国

紹　介:８３の島から成り立つ
人　口：約２３万人
首　都：ポートヴィラ（エファテ島）
言　語：ビシュラマ語、英語、仏語
宗　教：ほとんどがキリスト教
寿　命：不明
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：マレクラ島、タンナ島

# フィリピン共和国

紹　介：７,１０９の島から成り立つ
人　口：約８,８５７万人
　　カオハガン島の人口は約４５０名
首　都：マニラ（ルソン島）
言　語：フィリピノ語、英語、ビサヤ語
宗　教：ほとんどがキリスト教
寿　命：男６５歳、女７０歳（平均）
生産物：バナナ
活動地：カオハガン島（セブ州）

# 海外活動報告




## 7月ヴァヌアツ共和国　マレクラ島

場所　ヴァヌアツ共和国　・　マレクラ島

期間　２０１１年７月８日～１５日

参加メンバー

(上段左から)田頭 修平(J)、井口 雄介(J)、吉竹 弘行(D)

遠藤 直子(H)

(下段左から)廣井 千寿(H)、森田 朋美(H)、小西 みやこ(J)

**活動内容**

**７月８日(金)**

13:30 大阪空港(伊丹)に集合。

手荷物の確認を行い、その後チェックインの手続きを行う。預けた荷物はそのままポートヴィラまで届くように手配出来たので、楽であった。2:30 に伊丹を出発し、成田経由(トランジットで、空港内で約５時間待機)で、シドニーへ向かった。

**７月９日(土)**

6:00 シドニー到着。

トランジットが約 12 時間あり、空港近くのホテルを借りて仮眠、休憩をとることが出来たため、長時間のフライトの疲れもここでかなり楽になった。

19:30 ポートヴィラに向けシドニーを出発。

23:30 にポートヴィラ到着、預けた手荷物が着いているか心配だったが、無事に運ばれてきており、ホッとした。その後タクシーでメラネシアンホテルに向かう。

**７月１０日(日)**

6:00 ホテルを出発して空港へ向かう。7:00 発の便を予約しており、チェックインをしようとするも、機種変更があり、全員は乗れないとのこと。何とか今日中にノルスープに行きたいので、あらゆる方法を考えたが、出発を一日ずらす以外に手段がなかった。ローリー氏にも連絡を取り、ノルスープ病院にも明日到着になる旨、伝言をお願いした。エアヴァヌアツは相変わらずである。

仕方なくホテルに戻り、予定の確認とレクチャー内容の打ち合わせを行う。夜、沢田チームと、ローリー氏、ラッセル氏も合流し、夕食を共にした。

**７月１１日(月)**

5:00 万一に備えて早めにホテルを出発、空港に向かう。今日は何としてもノルスープに行かなければならないので、必死の思いであった。何とか 3 人は 8:00 発の便に乗ることが出来た。

9:00 マレクラ島ノルスープに到着。(搭乗の都合で、森田は１人あとから合流)ＪＩＣＡの井口さん、高橋さんが出迎えて下さり、そのまま直接レクチャー会場へ向かい、すぐにレクチャーの準備に取り掛かる。

10:00 レクチャー開始。参加者約１７名。歯科医学の基本的なこと(解剖学や細菌学)を、日本で患者さんに説明するように解説した後、齲蝕や歯周病のメカニズムを講義した。そして、歯を磨く事で改善されていく口腔内の状態などをまとめたスライドを見てもらい、歯を磨く事の重要性を伝えた。

講義のあと、参加者全員に口腔内を染色液で染め出しを行い、鏡を見ながら磨けていないところを伝え、確認し、正しい使用法、磨き方を説明して、実際に歯ブラシを使って磨いてもらった。参加されたみなさんは、赤く染まった口腔内を見て、恥ずかしそうではあるが、一生懸命に練習して頂いた。

後半のパートは口腔が全身に果たす役割を中心に解説した。なかでも舌や口唇が、どのような役割をしているかを説明した。また嚥下をスムーズに行い、唾液を増やすことで、誤嚥性肺炎を防げること、しっかりした咀嚼運動は痴呆を防ぐこと等を色々なデータを交えて話した。参加者には少し意外な内容であったようだが、各自自分の家庭に同居する高齢者を考え、熱心に聴いて頂けた。

12:30　レクチャー終了。

昼食後、ゲストハウスに向かう。今年は、マーケットや、銀行が傍にあり、レクチャー会場もすぐ近くで、とても行動しやすく、快適に過ごせた。午後、今日をふまえて明日のレクチャーの検討、打ち合わせを行った。そして内容をより臨床的な内容に変更するように決めた。

**７月１２日(火)**

8:00　レクチャー開始。参加者約２０名(学校の先生中心)

前日と同じような内容で、口腔と、全身疾患のかかわり。そしてプラークコントロールと咀嚼、誤嚥性肺炎へのつながりなどの講義を行う。実習は前日同様、染色してブラッシングを行った。そして、軟らかいクッキーを使い、色々な食べ方をしてもらって、歯以外に、食事をするときに舌や口唇の動きや働きの重要性を認識してもらう。

その後、舌のトレーニングをスライドを見ながら体験してもらった。レクチャーを終え、舌のトレーニングの反響が大きかったのには正直びっくりしたが、用意して行った甲斐があったと嬉しく思った。午後から、ウリピブ島へカルキ氏に会いに行く。相変わらず元気そうだったので安心した。我々の活動の基盤を作ってくれた彼にはいつも感謝している。夜、ＪＩＣＡの井口さん、小西さん、田頭さんと一緒に楽しく夕食を取り、日本での再会を約束した。

**７月１３日(水)**

あっという間に、マレクラ島を発つ朝を迎えた。

片付けに病院へ向かう車中、当初 11:30 発の予定が、10:30 に変更になったらしい、と現地の人から情報を聞いて慌てて空港に向かう。サント経由でポートヴィラに向かう旅程だったが、サント島からポートヴィラへの便が欠航との話を聞く。まあとりあえずサントまで行ってから考えることにした。最後の最後までお世話になった、ＪＩＣＡの井口さん、田頭さんがノルスープの空港まで見送りに来て下さった。10:50 サント島着エアヴァヌアツの職員との話で、ポートヴィラまではチャーター便で移動してもらうとの事。とりあえずホッとするが、毎度毎度ヴァヌアツはスリルを味わわせてくれるとつくづく感じた。

13:30 ポートヴィラ着着後メラネシアンホテルへ移動。荷物の整理を行う。またローリー氏に活動内容の報告をして、夕食後早めに就寝。

**７月１４日(木)**

5:30 ホテル発　暗い中ホテルを出発し空港へ向かう。

7:00 ポートヴィラ発　9:30 シドニー着　到着後ホテルへ向かい、チェックインの後、自由時間とした。各自思い思いに過ごした後、反省会を兼ねた夕食会を行った。

**７月１５日(金)**

8:15 シドニー発　成田経由で帰国の途につく。

19:55 伊丹着　解散
今回も色々なハプニングの中、レクチャーを行い、無事に帰国できた。
　しかし現地での活動に関してはどのように受け止められたか、また今後どのように活用していってもらえるのか、不明な点もある。これから我々がどのような形で、またどのような立場で活動していくのか、考えていかなくてはならないと感じている。

## 7月ヴァヌアツ共和国　タンナ島

場所　ヴァヌアツ共和国・タンナ島
期間　２０１１年7月９日～１８日
参加メンバー
(上段左から)山本　喜代(V)　上崎　秀美(D)　横井　宏海(V)　垣内　万智子(H)
(下段左から)大西　富子(H)　沢田　宗久(D)　倉橋　朋子(H)　沢田　有希(H)

活動内容

７月９日(土)
午前８：００に参加メンバー８名が集合し関空から香港へ
１９：００の便で次はシドニーへこの日は機内泊

７月１０日(日)
早朝にシドニーに到着後、ポートヴィラに向けて再び出発
１５：００頃ポートヴィラに到着
現地政府のローリー氏と保健省のトメル氏の後任で歯科医師であるラッセル氏に迎えられホテルに向かう。
ホテルでは、機種変更によるオーバーブッキングの為、足止めになった吉竹チームと合流し皆で夕食をとった。

７月１１日(月)
この日は待ちに待ったタンナ島への出発の日メンバーそれぞれに期待と緊張の中ホテルを後にした。ヴィラの空港では、以前お世話になったイソ氏と偶然に出会う。
また空港内で出会ったニュージーランドやヴァヌアツの方から東日本大震災について話しかけられた。
遠く離れた土地で日本を気に掛けてくれている人がたくさんいることに心が温かくなったひと時だった。
午前１１：３０頃にタンナ島に到着
イオ氏と JICA の西川さんが出迎えてくれ　ゲストハウスに向かう。今年は病院の目の前にあるハウスだった為、準備に無駄がなく効率よく進められた。
　昼食後診療を始めたが、初日にもかかわらず予想以上の患者さんが来られた。　沢田代表はポートヴィラに残り、政府とのミーティングを行う。
　ユニセフによる手洗いの啓発活動の後方支援として「タオルや石鹸」などの協力と言う話が出たが手洗いの為にはまず『水』が必要なため水が不足している地域・水のタンクが設置されていない地域の視察を行い尚且つ未来を担う子供達が学びやすい環境をと言うことで小学校に設置できないか検討することになった。

７月１２日(火)

今日から本格的に活動開始の為、メンバーは予定時間よりも早く準備に取り掛かる。　診療班と学校検診の班に分かれての活動。小学校は今回初めて訪れる２校に大西・倉橋・横井が行き、出発前から準備をしてきた『エプロンシアター』は参加型の啓発を兼ねた衛生保健指導の為　子供達にもウケが良く手間をかけて準備をしてきた甲斐があった。診療所は上崎・垣内・沢田・山本で行う。抜歯や充填治療が多くドクターが一人の為上崎先生はフル稼働していた。沢田代表とラッセル氏は２：３０にタンナ島に到着その後　教育省とミーティングを行う。

７月１３日(水)

今日も同じく診療班と学校検診班に分かれて活動する診療所は上崎・ラッセル・山本で行うが、午前中に患者が集中し途切れる気配がない程だったが、午後はウソのように患者が引き,遊んでいた子供を捉まえてブラッシング指導を行った。学校検診は、大西とティミー氏 JICA の野呂さんとで２校まわり今回のマンパワー不足をここでも感じたが、持ち前のガッツで乗り切ってくれた。

沢田代表と垣内・沢田・横井のメンバーでレナケル小学校の検診及び文化交流のタペストリーの贈呈を行う。衛生指導や文化交流は子供達もとても楽しそうな様子だった。

７月１４日(木)

この日は早朝から診療所前が騒がしく子供の姿も多く見られた。１２日より行った学校検診で治療を必要とする子供達が先生と一緒に訪れた為だ。沢田代表とラッセル氏の２名のドクターと大西・倉橋・山本で診療を開始するがお昼を過ぎても患者が引く気配は無かった。

学校検診は上崎・垣内・沢田・横井・JICA 野呂さんとで２校まわる。生徒数の多い学校であった為宿舎に戻って来るのはお昼を過ぎていた。メンバーも段々と疲れが出はじめてきた頃だったが、美味しい日本食のおかげで体調を崩す者はいなかった。

７月１５日(金)　活動最終日

診療所は沢田代表・上崎・ラッセル・垣内・沢田

この日も昨日に続きトゥフーから先生と生徒が車に乗り込み治療に訪れた。他にも、レナケル病院に入院中の少年の抜歯も行う。　学校検診は大西・倉橋・山本・横井で２校へこの日も JDM が初めて訪れた学校の為、大変喜んでいただけたようで検診後フルーツなどのお土産をたくさん頂いた。どの学校でも保健指導の最中は子供達が真剣なまなざしで話に聞き入っていた。また、学校の先生も一緒になって歯磨きの練習を最後までして頂けたことは小さな一歩かも知れないが、大きな成果に繋がると感じた。

７月１６日(土)

朝８：００から診療所と宿舎の片付けを行う。その後ラッセル氏と合流し、ホワイトグラスにて昼食を取る。夕方ホートビラに到着し夕食を兼ねてミーティングを行う。次の日が早朝出発の為、皆早めに就寝した。

７月１７日(日)

朝５：００にホテルを出発しシドニー経由後、２２：００頃香港に到着。香港のホテルに一泊する。長時間のフライトの為、ここでの一泊はとても体の負担を軽減できた。

７月１８日(月)

朝８：００に香港を出発し関空に１４：３０到着

メンバーは『帰りたくない！』と口ぐちに言っていたが、過酷な環境の中こんな風に思えるのはヴァヌアツという国で、ただ同じ人として人間同士の係わりを持てたからだと思う。毎年恒例の『家に帰るまでが JDM！』記念撮影後解散した。

**総括**　　チームリーダー　上崎秀美

今回も技工士さんの参加がなく、歯科医師２名、衛生士５名、ボランティア１名　総勢８名で７月９日～１８日の活動でした。私にとっては４回目にしてやっと、この国の指揮命令系統の流れがなんとなく見えてきたように思いました。事前の打ち合わせがうまくいくと、車の手配はよく、フォローするＪＩＣＡのみなさんの助言などで比較的スムーズに診療所、小学校とこなせたように思います。また、今回の宿舎が病院のまえで､非常に便利が良かったことと、隣接した宿舎にＪＩＣＡメンバーが居住し毎晩話し合いの場が持てたことも現地事情を理解するのに役立ちました。最後になりましたが、たくさんの患者さん、多数の小学校まわり、忙しい中の食事準備と全員の協力がなければ達成できないことで　このチームワークに非常に感謝いたします。また、笑顔をくれた現地の方々、国内から支えてくれた方々、活動チームで支えてくれた方々に感謝しつつ、全員無事に帰国できましたことを申し添えてリーダー報告を終えたいと思います。

## データ

| | 11日 | 12日 | 13日 | 14日 | 15日 | 総数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| CR | | 18 | 30 | 11 | 54 | 113本 |
| セメント | 7 | 6 | 15 | 14 | 13 | 55本 |
| 抜歯 | 0 | 17 | 10 | 40 | 26 | 93本 |
| 義歯修理 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 3床 |
| TBI | 6 | 2 | 7 | 0 | 1 | 16人 |
| スケーリング | 4 | 6 | 7 | 0 | 1 | 18人 |
| チェックのみ | 0 | 0 | 1 | 4 | 9 | 14人 |
| PMTC | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1人 |
| 根幹治療 | 0 | 2 | 7 | 0 | 1 | 10人 |
| 切開 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2人 |
| | | | | | | |
| 受信者数 | 12 | 24 | 36 | 59 | 43 | 174 |

## 11 月フィリピン共和国

場所　　フィリピン共和国・カオハガン島

期間　　２０１１年１１月１８日～１１年２３日

参加メンバー　７名

(左から)　沢田宗久(D) 大西冨子(H) 中川翔太(D) 黒川加奈子(H)　高津充雄(D)　垣内万智子(H)　沢田有希(H)

**活動内容**

**11 月 18 日(金)**

沢田(D)、中川(D)、高津(D)、大西(H)、黒川(H)、沢田(H)の 6 名で関西国際空港を 30 分遅れで出発し、セブ島にて垣内(H) と合流し 18：40 ごろカオハガン島に到着する。崎山さんを交えての夕食を済ませ、20：00 よりミーティングを行いこれからの活動の流れや仕事の振り分け等を決める。

**11 月 19 日(土)晴れ**

今回の活動拠点場所はバランガイホールとなり、9:00 から全員で機材等のセッティングに取り掛かり 10:00～診療を開始した。主には外科スペース、充填スペース、予防スペースの３部屋に分けて Dr 沢田が検診を行い治療に合わせて振り分けていく流れとなった。

来院患者数　午前：32 名、午後：24 名　　計 56 名

初日にも関わらず多くのカオハガンの島民が多く受診した。

**11 月 20 日(日)晴れ**

診療 2 日目はパンダノン島からの受診者数が多く、口腔内の環境もカオハガン島民に比べて悪く感じた。

来院患者数　午前：30 名、午後：11 名　　計 41 名

前日に比べると来院数は少なかったものの、1 人あたりに多数歯の抜歯を希望する患者(パンダノン島)が特に多かった。カオハガンの若者はクリーニングを希望する人が多く、予防も徐々に浸透してきている様子であった。

11 月 21 日(月)晴れ

学校へ出向きドネーション、赤染め・TBI 指導、検診を前半後半で行う予定をしていたが、学校が祝日とのことで生徒が全員集まっておらず、急遽予定を変更しドネーションと指導の後半を取りやめることになった。学校に集まったⅠ～Ⅴクラスの生徒 47 名に対し赤染めを 2 回行い、時間をかけて徹底的に歯磨きをさせその後 検診を受け､必要に応じてバランガイホールへ治療を受けるように促した。多くの子供たち(27／47 名)がきちんと受診し、第一・第二大臼歯に予防処置を行うことが出来た。

来院患者数　午前：37 名、午後：31 名　　計 68 名

11 月 22 日(火)晴れ

前日行えなかったドネーションを学校にて全員で行うことが出来た。寄付で頂いた歯ブラシ、絵具、画用紙、鉛筆を子供達１人１人に手渡すととても喜んでおり、こどもたちから元気をもらえた気がした。その後、バランガイホールの撤収作業で在庫チェック、パッキングを行い午前の活動を終了とした。

午後からはリクレーションで崎山さんに海に連れていっていただき、その後は島民を交えての運動会を行った。競技内容は お菓子釣り競争、リレー、玉入れ、綱引きの内容で子供達は大喜びの様子であった。

夕食後は活動のトータルミーティングを行い、データ等を発表し各々の感想や意見を述べて活動を締めくくった。

11 月 23 日(水)晴れ

満潮のお陰でカオハガン島を 9：00 に出発となった。定刻にセブ空港へ到着したものの他機で VIP 対応があり搭乗時間が遅れた。その後、予定通りに無事帰国し関西国際空港で解散。これにて２０１１年度フィリピンカオハガン島での活動を終了した。

総括　　チームリーダー　沢田宗久

カオハガン島での活動は今年で 15 年目を迎えました。活動を始めた当初、ほとんどの子供の第一大臼歯や前歯がカリエスで大人も子供も口腔内は悲惨な状態であった。カオハガン島の島民数は当時で約 400 名(現在約 600 名)、小学校生徒数は約 80 名(現在約 100 名)でデモケースとして島民の管理がしやすかったとこもあり、この島を拠点として活動することとなった。

その後、セブ島のラップラップ州を表敬訪問した際に市長からカオハガン島以外の島々での活動要請を受けた。いろいろ検討してみたが限られた活動期間内では物理的に無理であると判断し、やむを得ず断ることとなった。その代わりに他島民がカオハガン島へ来て受診出来るようになった。１５年に亘り小学校ではブラシや文房具のドネーションを行い検診と口腔衛生指導、永久歯保存を目的とした予防充填を行ってきた。今回は祝日だったようで急遽集めた生徒数は 47 名と少なく残念だったが、長年の予防の結果が徐々に表れ始め、現在では第一大臼歯がほとんど正常に萌出しカリエスも減少してきように感じた。これはこれまでに活動に参加してくれた JDM メンバー全員のおかげであると確信している。これからの活動にも期待している。

データ

| 処置内容 | 11/19 | 11/20 | 11/21 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 抜歯 | 33 本 | 80 本 | 75 本 | 188 本 |
| CR 充填 | 20 本 | 11 本 | 10 本 | 41 本 |
| セメント充填 | 23 本 | 15 本 | 99 本 | 137 本 |
| SC | 12 人 | 9 人 | 4 人 | 25 人 |
| 咬合調整 | 0 人 | 0 人 | 1 人 | 1 人 |
| 顎調整 | 0 人 | 0 人 | 1 人 | 1 人 |
| その他　検診 | 2 人 | 0 人 | 1 人 | 3 人 |
| 患者数 | 56 人 | 41 人 | 68 人 | 165 人 |

（※再来院あり）

| 島の名前 | 11/19 | 11/20 | 11/21 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| カオハガン | 41 人 | 13 人 | 44 人 | 98 人 |
| パガンアン | 4 人 | 1 人 | 0 人 | 5 人 |
| カブラン | 2 人 | 0 人 | 0 人 | 2 人 |
| パンダノン | 4 人 | 27 人 | 20 人 | 51 人 |
| ラプラプ | 5 人 | 0 人 | 0 人 | 5 人 |
| ヒルトガン | 0 人 | 1 人 | 3 人 | 4 人 |
| バリング | 0 人 | 0 人 | 1 人 | 1 人 |
| 総患者数 | 56 人 | 42 人 | 68 人 | 166 人 |

## ２月フィリピン共和国

場所　　フィリピン共和国・カオハガン島

期間　　２０１２年２月７日～２月１２日

参加メンバー

（上段左から）定政 洋美(D) 川野 弘道(D)（工藤さん）
長谷川 智哉(D) 中辻 秀一(T) 中窪 円香(V)
河内 光明(T)　大西 富子(H) 早川 成人(D)
上崎 秀美(D)

（下段左から）田中 沙由里(H) 奥山 由貴子(H)
福井 あずさ(H) 川村 章子(V) 沢田 宗久(D)
清水 絢子(D) 中務 裕子(H)

**活動内容**

**２月７日(火)**

今回は、関西空港からの出発隊のみでした。朝７時半に集合して出国、マニラ空港で乗り継ぎ、セブ島空港へ。天気は良好。その後、マクタン島より船に乗り換え、１９：３０頃にカオハガン島に到着した。満ち潮であったため、海の中を歩くことなく到着できた。夕食をとり、自己紹介を兼ねた現地ミーティングを行い、翌日からの活動の要点、生活での注意事項などの打ち合わせを行った。

今回は、バランガイホールの準備、電気・水道・コンセント・機材の準備などは明朝、診療前に行うこととなった。

前日に、近方の島、ミンナダナオ島でＭ６．９の地震があったとのことであったが、地震の影響はほとんどなかったとのことだ。

**２月８日(水)曇り時々晴れ**

明け方までの雨が上がり、晴れ間が見えてきたところで診療初日を迎えた。朝食時に軽いミーティングを行った後、診療所へ向かう。

まずは、診療所となるバランガイホールでの機材の準備や消毒、電気・水道・コンセントの確認を行った。今年は、昨年とは違い、診療当日にこの準備を行ったため朝の診療開始が少し遅れてしまったが、全員で協力のもと急ピッチで準備を行い、診療を開始した。初参加者が多く、皆、これから始まる診療を頑張ろうと目を輝かせていた。10 時ごろより、診療を開始した。患者はまずは Dr 沢田によるチェックアップを受けた上で、治療方針が決定される。配当され、順次、患者の治療にとりかかる、という流れだ。

今回も午前中は、義歯印象がメインとなり、Dr や DH みなが対応していく。同時に、抜歯、抜歯後義歯修理(増歯)などの治療が入ってきた。患者でホールの入り口はごった返し、スタッフがそれぞれ、自分のできることを探し、協力して治療を進めていった。

今回の義歯作製は DT が 2 名ということで 10 床までにする、と前もって決まっていたが、やはり、義歯作製を希望する患者が多く断るのは心苦しい！！との DT や Dr の気持ちから、結局 12 床の印象採得となった。

初参加メンバーもそうでないメンバーもみな表情はとても生き生きとしており、状況を理解しながらそれぞれが自分のできることを探して取り組んだ。

午前の診療はあっという間に終わり、スタートが遅かったせいもあり若干時間が押したが、カオハガンハウスで昼食と軽いミーティングを行い、午後の診療となった。午前中に採得した印象をもとに、さっそく咬合採得、義歯修理やリベース、押し寄せる痛みのある患者の抜歯の治療がメインであった。並行して、DH 大西が中心となって小児の口腔内の追跡調査である口腔内写真の撮影と模型採得も行っていった。しかし、追跡調査も８年目となってきており、進学や就職で島を離れている子供もおり、島に帰ってくる週末まで作業が延長されることが予想された。

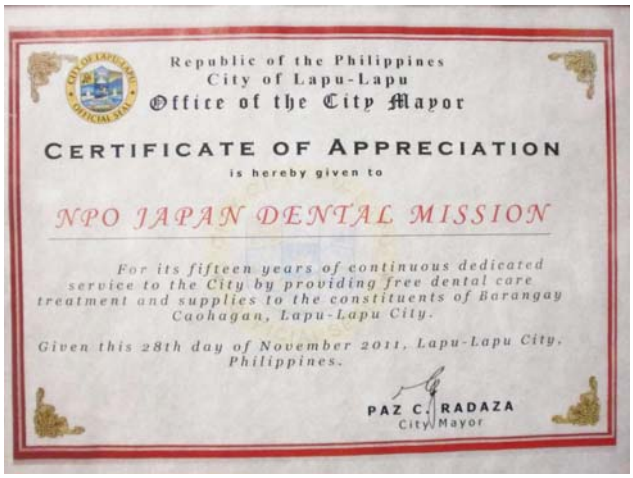
午後も痛みがあるから抜いてほしい。というような急を要する抜歯を希望する患者様が多かったため、DH やＶｏによる器具の消毒への動線の確保を試行錯誤しながら診療を進めた。ある程度、手際よく診療を進める流れができ、初日の診療を終えた。

夕食をとった後、初日の反省などのミーティングを行った。明日は学校検診やドネーション、染め出しとＴＢＩがあるため、メンバーを決定し、メンバー内でも活動の流れを確認した。

２月９日(木)曇り

夜中に降り続いた雨の影響で涼しい朝を迎え、診療現場となったバランガイホールはどこかからの雨漏りのせいか、水浸しとなってしまった。村の少年たちやエマ、トッペルら現地スタッフが手伝ってくれ、ホールの清掃を行う中、治療が始まった。診療所では、義歯の咬合採得、部分床義歯の装着、抜歯充填治療がバタバタと進められている中、午前中、この日は小学校での検診もあった。ＤｒとＤＨで小学校を訪問した。100 人以上生徒がいる、とのことだったが、検診があるため来なかった生徒も多々いるとのこと・・・実際は 93 人の検診を 2 チームに分かれて行った。治療が必要と判断した患者が 52 人おり、そのままＶｏとともにバランガイホールへ一緒に行き、治療を行う、という流れをとっていたが、どこかでトンズラした生徒が 6 人いた！！そのため、実際は 46 人が治療となった。充填処置、予防填塞、乳歯抜歯など、午前中は小児の治療を優先し、大人の方には午後の治療に回ってもらうようお願いする場面も見られた。

また、Ｄｒ沢田は、崎山さんとともにラプラプ市長を表敬訪問し、市長よりＪDMの活動、及び、セイコーエプソン労働組合の寄贈に対して、感謝状をいただいた。昼食の際に、全員に感謝状が披露された。活動に対して、このように評価していただけることに感謝の気持ちでいっぱいになった。


Republic of the Philippines
City of Lapu-Lapu
Office of the City Mayor

CERTIFICATE OF APPRECIATION
is hereby given to

NPO JAPAN DENTAL MISSION

For its fifteen years of continuous dedicated service to the City by providing free dental care treatment and supplies to the constituents of Barangay Caohagan, Lapu-Lapu City.

Given this 28th day of November 2011, Lapu-Lapu City, Philippines.

PAZ C. RADAZA
City Mayor

午後は歯ブラシや画用紙などのドネーションを行った後、ＤHが中心となり海での子供たちの染め出しとＴＢＩを行った。ＤHのＴＢＩを受け、子供たちはキラキラとした笑顔でブラッシングをしていたとのことだ。

診療室では、残ったメンバーがそれぞれ、抜歯、充填、義歯治療に走り回った。午後も診療所スタッフが少なくなったため、みんなが駆け回って診療にあたった。無事に、定刻過ぎに診療は終わり夕食。その後は恒例のミーティング。この日あたりから、体調不良のものも見られた。

２月１０日(金)晴れ

今回は、天候不良の日が多い中、この日は朝から晴天で青空が広がっていた。明日は片付けがメインとなるので、本日は治療が最終日。義歯装着や予防治療がメインになると予想された。

午前中は、予想通り、義歯装着がメインで、ほか、比較的口腔内の状況が良い患者の受診が多く、スケーリングやTBI、CR 充填や予防充填処置が多く見られた。

午後からは比較的、患者が少なく緩やかな時間が過ぎて行ったため、一部のメンバーは村へ繰り出し、住民へのブラッシング指導を行った。同時に、少し島民たちの生活にも目を向けると、子供たちは、甘い糖分の多そうなお菓子を食べている姿を多く見受けられた。日本では、おやつの時間は決める、食べたら磨く、など生活習慣からくる齲蝕予防の指導も行っているが、ここではまだそのような意識はないことがわかる。ＴＢＩを行おうとする我々の姿を見ると逃げ出す子供たちもいたが、中には自ら近づいてきてブラッシングを受ける子供、歯ブラシ欲しさにしぶしぶブラッシングを受ける子供、泣きながらブラッシングを受ける子供など様々ではあったが、少しでもブラッシングの気持ちよさを知ってもらい、生活の中で習慣となっていけばいいのだが・・・と思った。

夕方ころからは、バランガイホールの横の広場で住民たちが大きな音量の音楽とともにダンスパーティをしており、その中で戯れながらブラッシング啓蒙も行った。

また、2月9，10日を通して、村では子供たちに向けて映画の上映会を行った。

この日は、カオハガンハウスの配慮により、たこ焼きも開催された。日本とは異国のフィリピンで食べるたこ焼きは電圧のせいかなかなか焼き色がつかず、皆で夢中になって焼く姿が印象的であり、一味違っておいしく感じられた。

この日も体調不良のものも見られたものの、無事に一日を終え、夕食後はミーティングを行い、最終日の診療、片付けや文化交流などの流れを確認した。診療をしっかりと行える３日間は現地スタッフであるトッペル、エマ、マイケル、青木さんの協力もあり無事に終えることができた。

**２月１１日(土)曇り時々雨(肌寒い一日となった・・・！)**

９：００より荷物の在庫管理調査とパッキング。１２時まで全員総出でそれぞれ手分けして、在庫チェックをした。その間に、義歯装着や調整を行う。また、Ｄｒ沢田とＶｏ２名によって並行して、運動会の準備も行い１２時には来た時よりも美しく！！を目標にバランガイホールの片付けと清掃作業がほぼ終了した。

昼食後は１５：００までフリータイム。あいにくの天候のため、シュノーケリングや海釣りには出られなかったのだが、みなそれぞれ、島での最後の自由時間を満喫した。

その後は恒例の大運動会！プログラムは、リレー・おたまリレー・玉入れ・綱引き。子供たちの笑顔が広がった。競技終了後は、子供たちへ歯ブラシのプレゼントを行った。

夕方は難破船での慰労会。天気も回復し、きれいな夕焼けとともに、島の子供たちも来てくれ、活動の疲れを癒した。夕食後は最終ミーティング、本日の治療や活動の報告、最後、ひとりひとりの反省や感想、Dr 沢田による総括のコメントをいただき、メンバーで過ごす最後の夜を楽しんだ。

**２月１２日(日)朝まで土砂降り、のち雨**

崎山さんをはじめとするカオハガンハウスの皆様のご厚意により、6時半から朝食をいただき7時半出発となった。

引き潮のため遠浅の海を数百メートル、雨の中を歩き、小舟に乗り込み数百メートル。やっとボードへの乗船となった。ぐるりと回って１時間の航行となったが無事にセブ島空港に到着、行きと同じくマニラ空港で乗り継いで関西国際空港への帰路となった。

体調不良なものも多く、帰りも飛行機内、空港にてアクシデントが発生したが、無事に関西空港にて全員での集合写真を撮影の上で、それぞれ家路へとついた。

初日より、Ｄｒ沢田が言っていらした

「ボランティアにおける、**かきくけこ**」

**か**　感謝する

**き**　協力する

**く**　工夫する

**け**　健康である

**こ**　行動力

各メンバーそれぞれが、自分なりにこの言葉を意識しながら６日間の活動を無事に終えることができた。

## 総括

チームリーダー　上崎秀美

２月７日から１２日まで１６名(Dr７名、DH５名、DT２名、Vo２名)で活動してきました。

今回潮周りは、悪く往復とも長時間の船でしたし、帰りはずぶ濡れの風雨のためみなさん疲れたのではないでしょうか？また、いつものように義歯作成を行う際は、全員の希望にそえず断るケースの多いことが非常に心苦しく、２名の技工士さんの負担も過重なものになり大変でした。ご苦労様でした！！

後半、診療の合間に、怖いもの見たさに寄ってくる子どもたちに、歯ブラシだけ、といって座らせ、術者みがきをみんなでやってみました。意外と子どもたちは、おとなしく開口し磨かせてくれました。

すこしずつでも、歯磨きがつらい、めんどうなことでなく気持ちよく、すっきりし、つるつる感を理解できるように持って行けたら、そして自分の身体を自分で守る一助になれれば、関係者冥利に尽きるのではと思います。

最終日、天候不順ではありましたが　運動会は粛々と全員の協力のもと　盛会に終わり無事終了いたしました。

滞在中発熱数名、帰路機中体調不良、帰国時健康相談に引っかかるなどハプニングはありましたが、全員無事に関空ロビーにて解散式をし、帰途につきました。いつものことながら、全員のサポートのもと無事ミッション遂行できたことを感謝いたします。

ではまた次の機会に。

## データ

| 処置内容 | 2/8 | 2/9 | 2/10 | 2/11 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 抜歯 | 84 本 | 64 本 | 23 本 | 0 本 | 171 本 |
| CR 充填 | 14 本 | 31 本 | 28 本 | 0 本 | 73 本 |
| セメント充填 | 14 本 | 72 本 | 30 本 | 0 本 | 116 本 |
| SC | 4 人 | 10 人 | 14 人 | 0 人 | 28 人 |
| TBI | 0 人 | 2 人 | 9 人 | 1 人 | 12 人 |
| 義歯修理 | 5 床 | 5 床 | 2 床 | 0 床 | 12 床 |
| リベース | 7 床 | 2 床 | 2 床 | 0 床 | 11 床 |
| 義歯新製 PD | 12 床 | 0 床 | 0 床 | 0 床 | 12 床 |
| 義歯新製 FD | 6 床 | 0 床 | 0 床 | 0 床 | 6 床 |
| 義歯装着 | 0 床 | 0 床 | 4 床 | 7 床 | 11 床 |
| 咬合調整 | 0 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 1 人 |
| その他　検診 | 1 人 | 0 人 | 3 人 | 1 人 | 5 人 |
| 患者数 | 53 人 | 90 人 | 47 人 | 5 人 | 195 人 |

| 島の名前 | 2/8 | 2/9 | 2/10 | 2/11 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| カオハガン | 30 人 | 61 人 | 38 人 | 2 人 | 131 人 |
| パンガナン | 1 人 | 3 人 | 1 人 | 0 人 | 5 人 |
| サンタロッサ | 0 人 | 3 人 | 0 人 | 0 人 | 3 人 |
| パンダノン | 20 人 | 23 人 | 6 人 | 3 人 | 52 人 |
| セブ | 2 人 | 0 人 | 2 人 | 0 人 | 4 人 |
| 総患者数 | 53 人 | 90 人 | 47 人 | 5 人 | 195 人 |

# 海外活動参加者の声

川野弘道（歯科医師）

カオハガンでのひととき

まず始めに、沢田先生初め JDM の活動を支えて下さったたくさんの方々に感謝します。本当に有難う御座いました。

最初に今回の活動に参加しようと思った動機は単純なものでした。歯科医師として人がなかなかできない経験をしたいということ。ただそれだけでした。不謹慎かもしれませんが、ボランティアをするんだ！社会貢献をするぞ！と言った強い思いや立派な考えはありませんでした。自分の新しい経験が結果として島の人達のためになるように一生懸命頑張ろう程度でした。

カオハガン島についても、崎山さんの本を読む事もなく現地についてから本がでたりしていること知ったくらいです。ただ、今となってはそれがすごくよかったように思います。見るもの、聞くもの全てが先入観というフィルターなしに入ってきて、様々なことを感じ考える事ができました。

カオハガンでの診療がいざ始まってみると日本とは全く違い戸惑うこともありましたが、温かい島民の方々や頼もしいメンバーのサポートでなんとかかんとか無事に終える事ができました。そして、診療をする中で少しでも島民の方達に良くなってもらいたい。少しでも貢献したいという気持ちになっていました。日本では病院の口腔外科に勤めているので２年目とはいえ、多少の自信はあったのですが恥ずかしながらその自信とﾌﾟﾗｲﾄﾞは脆くも崩れ落ちました。そういった意味でも改めて自分と向き合う事ができましたし、臨機応変に考えて動くことの大切さ。チームワークの大切さを実感する事ができました。そして、診療の中で日本では保存可能な歯牙も抜歯しないといけない現実と簡単に歯を抜いてくれという島民の方々に憤りや悲しさを感じることもありました。

診療以外では、島の子供たちの笑顔や元気いっぱいに遊ぶ姿。島民の方が日々を精一杯暮らす様子をみて心が豊かで笑顔に溢れていました。すごくエネルギーをもらいました。目に映る景色が日本とは違い、目に映るもの全てが色鮮やかに感じました。月並みですが、豊かさとはなんなんだろうと考えさせられました。

また、日本に帰ってから診察をするなかで、カオハガンでの経験によって自分の中でなにかが変わっているように思います。JDM の活動に参加した事によりたくさんの人と繋がれた事も自分にとって素晴らしい財産だと思います。言葉ではうまくあらわせませんが、カオハガンには「目には見えないなにか」が確かにあったように思います。

最後になりますが、JDM の活動がこれからもずっとずっと、カオハガンの人々の口腔内環境の維持の助けとなり。痛くなったら抜くのではなく、痛くならないように予防する事の大切さ。歯の大切さを少しでも

わかってもらえるようになるように切に願います。機会があれば、また参加したいと思います。
改めて、素晴らしいひとときを有難う御座いました。

田中 沙百合（歯科衛生士）

活動を終えて

知り合いの先生から、海外歯科ボランティアの話を聞き、ずっと行きたいなと思っていました。
日本とは違う環境で、どのように治療を行うのか。島民の口腔内状況はどうなのか。そして、日々の診療に追われる中で、歯科衛生士になった時の初心を忘れかけている自分にとっても、何かプラスになることがあるのではないか。と思い参加しました。
現地に行くまでは、初めて参加する自分に務まるか不安もありましたが、メンバーの皆さんの支えもあり、何とかこなすことが出来たと思います。
診療では、治療に慣れていない子供たちも、泣く子はほとんどいなく、グッと拳を握り、頑張っている姿には本当に感心しました。
言葉も通じるか心配でしたが、ビサヤ語や英語を交えながらお話しすると、なんとか理解していただけた様で、自然と笑顔でコミュニケーションがとれていることに気が付きました。
日本とは違う、カオハガンの歯科事情に基づいた治療や考え方を教えていただき、私にとってこの経験は大きな財産となりました。
そして、なんといっても、島の子供達はすごく懐っこくて、毎日診療後に子供達と遊ぶ時間が大好きでした。
キラキラした瞳ときれいな景色。カオハガンはとても豊かな所です。
ただ、最終日に体調を崩してしまい、先生方やメンバーの皆さんにご迷惑をおかけしてしまったことが心残りなのと、最後まで、もっともっと、いっぱい子供達と走り回りたかったです。

あっというまに過ぎた６日間。今までに経験したことのない素敵な時間を過ごすことができました。
今回ＪＤＭのメンバーとして活動に参加させていただけた事と、皆様とのすばらしい出会いに感謝です。ありがとうございました。

川村 章子（ボランティア）

カオハガンでの歯科ボランティアの感想

カオハガンには以前、旅行で訪れたことがあり、今まで何か国か海外に訪れた事がありましたが、私がもう一度行きたい、会いたい人々がいる、見たい風景、笑顔がある場所がカオハガンでした。
NGO 南の島からで知り合った知人を通じ、JDM ボランティアメンバーとして活動できる事を知ったのが今回参加を決めた経緯でした。事前ミーティングでは全く分からない歯科用語に目が点になりましたが、現地に行ってから、島民の方の役に立ちたいと思っていたので、歯式の記号と、ビサヤ語で簡単な歯科関係用語

を覚えていきました。
いざ、カオハガンについて、同行のメンバーの診察や治療が始まると、メンバーの方々の真剣な姿に影響を与えられ、役に立ちたくて、積極的にドクターや、衛生士さんに歯科治療の助手的な作業を教えて頂きました。そう思えたのは、歯痛に悩む島民の気持ちを少しでもリラックスさせてあげて、早く痛みを取り除いてあげたいと思われている気持ちがすごく伝わってきたからです。診察をされていた沢田先生の島民の為の、島民にいまできるベストな診察と治療への思いなども聞かせて頂き、日本でできる治療とカオハガンでできる治療は大きく異なるのだということを考えさせられました。
今回は初参加でしたが、私が出会った JDM のメンバーは本当に親切で、協調性があり、みんなで助け合いができたと思います。　診察に列がなくなると、空いた時間を効率的に活用するため、診療所のホールから飛び出し、歯ブラシをもった子供たちにブラッシングの方法を教えたりもしました。
歯ブラシに慣れることから、ブラッシングの重要性を島民が認識し、虫歯予防の効果を上げて、以後の結果に繋がっていけばいいなと願うばかりです。カオハガンのみなさんの素敵な笑顔が見ていたいから、私含め同行メンバーも一所懸命、治療に専念できたんだと思います。
6 日間、同行メンバーの役に立ちたいと強く思い、診療以外の時間でずっと笑顔でいれたのは、JDM と島民の方々との会話の中から生まれるチームワークのおかげだと思います。
これからも誰かのために何か自分にできること、貢献できることはないかと模索しながら、努力をしていこうと思います。みなさんありがとうございました。

**中務 裕子（歯科衛生士）**

**報告書**

日本と真逆の環境で６日間のボランティア開始。
ボランティアという形で初めて力を合わせて歯科診療を行う１６人
早朝より関西空港を出発、カオハガンに到着する頃には日も暮れ現地の方が準備をして下さった晩御飯を食べつつ翌日からの段取りミーティング
沢田先生の「かきくけこ」を教訓にし、８日の朝から診療所へ
普段では経験しない電圧や水の問題。道具､材料など使い慣れない物や環境の中、各自持ち場周りの状況を把握しながら
診療所を訪れてくださる現地の方へ最善

策を心がけ怒涛のごとく抜歯、充填、印象をこなしていくメンバー
途中休憩を挟みながら午前・午後の診療を終え夜は翌日に備えてミーティング。
9 日は小学校へ検診・ブラッシング指導
生徒たちの口腔内は混合歯列の時期で、検診することに慣れていない私に子供たちはとても協力的で、この時を切っ掛けに距離が近くなった様に感じました。
６歳臼歯がＣ４の状態になっていたり、生え変わるまでにＥがカリエスにより崩壊し永久歯の周りで花びらのように抜けずに残っていた生徒。
既に抜歯された口腔内に数本の歯が残る生徒。
逆にシーラントを施した歯を持つ生徒は予防効果が顕著に見られ崩壊を免れていた様に覚えています。
診療所へ戻り技工士の先生方が最終日までに義歯を仕上げる姿や以前にシーラントを詰めた歯がいかに効果的で予防に繋がっているのか。それぞれ刺激を受け、私も何か残したい。そう感じるようになり何が出来るのか考えた結果、時間の許す限り村を回り小学校に在籍していない子供や大人を対象に歯ブラシを配ることを始めました。ただ歯ブラシを手渡すのではなく必ず私の手でブラッシングを行い、顔を見て手渡すようし、特に乳児を抱える母親にはスケーリングを進め、口元を手で覆い隠す仕草をする男性にも診療所へ来て貰えるよう声掛けを行いました
子供たちは歯ブラシ欲しさに口を開けてくれます。その切っ掛けを周りで見ている子達にアピールし予防と歯科への恐怖心を取り除くように心掛けました。
気づけばスタッフと村の人たちの距離は殆ど無くなり現地の人達が手に歯ブラシを持ち笑顔で答えてくれていました。10 日の診療を終えると青年達からバスケのお誘いを受け、体力の許す限りＪＤＭメンバーと青年達が混ざってチームを組み、汗を流しました
口腔内の環境が悪いと力が出にくい。と思い込んで挑んだバスケですが彼らの身体能力は凄く反対に手を抜いてもらう始末。脱帽でした。

11・12 日は義歯のＳＥＴや治療が続き本当に初めて力を合わせた者の集まりであることを忘れるほど息の合った空気、流れが出来ていたと思います
体調を崩しながらも笑顔を絶やさないメンバーと最後まで活動できた事、いつも美味しい食事を作ってくださる現地の方々
何よりＪＤＭを立ち上げこのような貴重な体験が出来る環境を提供して下さった沢田先生
本当に感謝の気持ちでいっぱいです
最終日、関西空港を後にするメンバーの顔に達成感や新たな目標を覗う事が出来ました
このメンバーに参加出来たこと心から嬉しく誇りに思っています
口腔ケアに限らず水や電気、日頃何気なく捨てている物、全てが「もったいない」と再認識し気付かせて頂いた 6 日間でもありました。
今後もこの活動が続きますように。

**福井 あずさ（歯科衛生士）**

**『カオハガンでの活動を終えて』**

今回私がこの活動に参加しようと思ったのは、歯科衛生士 7 年目を迎え、少し行き詰まりを感じていた時に相談した先生の話がきっかけでした。
それまでは、ボランティアの経験もなかったんですが、私は毎日たくさんの人達に支えられて生きていることに気づき、私にも何かできることはないか？少しでも何かの役に立ちたい。そう思ったからです。
でも実際は不安だらけだったんですが、沢田先生の「みんなが楽しく、自分にできることをやったらいい」

そうおっしゃってもらい、とてもほっとしました。
現地に着き、翌日より診療が始まり私は予診の補助をさせて頂き、ここでの現状を目の当たりにしました。年齢関係なく残存歯が少ないこと、ほとんどがC 3,C4の多数歯カリエス。日本ではあまり目にしない症例ばかりで驚きました。
診療するにも、限られた材料で、機械の調子もうまくいかない時もありましたが、工夫したり、使いやすいようにしたりと、一人一人が知恵を出して、ここでの最善の治療を行ってたと思います。
そして、二日目に小学校での検診とブラッシング指導に参加させて頂きました。子供達は皆、人懐っこくキラキラした笑顔で近寄ってきてくれました。
歯ブラシをもらい、海辺でみんなが一生懸命ブラッシングしてる姿、高学年の子が小さい子の仕上げ磨きをしている姿、磨き終えて満面の笑みで歯をみせてくれる姿、すべてが新鮮で忘れられない思い出です。
国を越えて私も少しでも人々の健康に携われたこと、本当にうれしく思います。ここで得た貴重な体験を糧により一層、衛生士として頑張ろうと思います。
最後に、ボランティアに参加させてもらったこと、たくさんの人、環境に感謝します。
素敵な出会い、経験ありがとうございました。

## 定政 洋美（歯科医師）

**カオハガン島でのボランティア活動に参加して・・・**

JDMの歯科ボランティア活動を知ってから４年。参加したいという思いだけがありながら時間が過ぎてしまい、今回環境に恵まれ参加できたことに多くの方々へ感謝の気持ちで一杯です。
私は歯科医師としてまだ４年という年月しかたっていません。
まだまだ、勉強中・修行の身ですが、日常の歯科治療を精一杯頑張ることは前提として、常日頃から歯科医師として何かもっと自分にできることはないか、と考えていました。そんな時にJDMの活動を知り、歯科治療を満足に受けることができない方々の実際の現状を目の当たりにし、微力でも貢献出来ればと思い参加を決めました。
島での診療中、とある島民のおじいちゃんの抜歯中、なかなか抜歯が上手くいかず時間がかかってしまったことがありました。麻酔は効いているものの、とてもしんどかったと思います。最終的には抜歯できたもの

の、おじいちゃんはすごい汗、私が至らなかったために申し訳ない気持ちで一杯でした。ですが、退室間際に、ありがとうとハグと握手をして下さったのです。私は胸がいっぱい泣きそうになり、言葉になりませんでした。歯科医師として、このような気持ちになったのは初めての経験です。
実は、出発前にとある方から、私が参加したことで、そこで何か変わるのか、意味があるのかと、いう厳しいお言葉を受けました。ですが、実際、参加メンバーとお話しさせて頂いたり、島民の方々と触れ合い、分からないながらも会話をしているうちに、私が今出来ることを精一杯することで、笑顔になって下さる方が一人でもいるなら、それが私のするべきことだと強く思いました。自分自身が、島民の方々へのボランティアで訪れたにも関わらず、勉強させられること・することばかりで、毎日自分がスポンジになったように活動できたと思います。
また、JDM の方々が長期間活動を継続されてきた土台の上での恵まれた環境で、活動できたこと。心から尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。世界で考えると、出来ることはほんのほんの小さなことかもしれません。ですが、１本の抜歯でも、１本の充填でも、１床の義歯でも、１人だけのためであっても。私達に出来ることがある限り必要なことだと確信しました。
今回、参加を許可して下さった、院長・先生・スタッフの方々に感謝すると共に、沢田先生をはじめ、JDM メンバーの皆様に多くの御指導を頂き、一緒に活動できたこと、崎山さん、カオハガン島の皆様に出会えたことに心より感謝致します。本当に有難うございました。
そして、何より子供達の笑顔から齲蝕が１本でも無くなることを願ってやみません。
また、参加できることを楽しみにしています。
歯科医師として、人間として、「約束したことは必ずやり遂げること。そして継続すること。」を心に刻みながら・・・

**中窪 円香（ボランティア）**

「カオハガンの感想」

今回が私にとって初めての海外ボランティアで、しかも歯科に関する知識のない私は出発前から大きな不安を抱えていました。しかし、活動を終えた今 JDM の一員としてこの活動に参加できたことを大変嬉しく思っております。

カオハガン島に到着した翌朝から、あわただしく医療器具の用意が始まり、皆さんが当たり前のように道具を準備する姿をみて自分に出来ることがあるのかととても戸惑いました。しかし、メンバーの皆様が器具の名前や手順を一から優しく丁寧に教えてくださったおかげで、自分なりに活動に参加できた充実感を感じております。島の人々、特に子どもたちはとてもフレンドリーでキラキラ輝く笑顔で名前を呼びながら走りよってきてくれました。日本と比べれば物が少なく小さな島ですが、本当の豊かさとは何かを改めて考えさせられる 6 日間でした。ボランティアに訪れましたが、逆に多くの方に支えられ元気を頂き関係者の皆様には本当に感謝しております。

貴重な経験の場を与えてくださり、ありがとうございました。また参加できる機会がありましたら、微力ながら協力させていただきたいと思います。

## 奥山 由貴子（歯科衛生士）

「カオハガン島　歯科ボランティアに参加して」

長い間、思いを馳せていた国際協力というものについに参加することが出来ました。自分は歯科衛生士として何ができるのかと、出発前は考えてみたものの、状況が分からないカオハガンで何が通用するのかも分かりません。とにかく行って、見て、感じて、時に失敗して学ぼうと思っていました。

実際行ってみると、診療に関してはドクターのアシストが主で、うがい・声かけ・薬の説明といったことをしました。この説明というのが大変で、分かっているのかいないのか、抜歯なんかが終わるとサッと席を立ってしまうので術部が帰って化膿しないか、薬は言ったとおりに飲んでくれるのだろうかと心配もしましたが、ここでそのような細かいことは気にしてはいられないし、実際にその細かいことがここの人達にそれ程重要とは思えない雰囲気がこのカオハガン島にはありました。

崎山さんの本通り、この島はとてものんびりしていて自然が美しいのです。島民は、日の出と共に起きて日没と共に眠り、海で取れた魚を食べ、雨水で喉を潤す。そんな自然に沿ったライフスタイルでは、日本のようなイライラ感は感じられません。驚いたことに、ここに「差別」というものは存在しません。もちろん、身体的・知的障碍者はいるようですが、理不尽に排除されるということはないそうです。

子供達はとても可愛かったです。診療が終わり外に出ると、すぐに駆け寄ってきて手を取り、遊ぼうと言ってきます。診療後のオニゴッコは日課になっていました。学校へ歯科指導に行った時は、言葉は通じませんでしたが担任の先生の助けもあり無事に終えたものの、なぜ日本から、もっと子供達を引き付けるような指導媒体を持ってこなかったのだろうと後ですごく後悔しました。これは今回の反省点でもあり、次回への課題でもあります。ただ、その時の染め出しや、海の中でみんなで歯磨きは日本の常識を覆す、とてもここにマッチした素敵な光景で私の心に強く残っています。

私は、高度な先進医療の発展は素晴らしいですし、大切なこと思います。しかし、基本的な治療や予防法さえ受けられない所で草の根の活動をされている JDM に参加できたことは、とても意味ややりがいを感じました。自分にとって良い経験になり感謝をしています。

また、最終日に体調を崩し皆様にご迷惑とご心配をおかけしてしてしまったことをこれをもってお詫びをさせて下さい。そして、優しくして頂いたこと、共に活動できたことに心より感謝致します。

## 高津 充雄（歯科医師）

カオハガン島でのボランティア活動感想文

「マアヨンブンター」おはようの挨拶でカオハガン島の一日が始まります。

海外でボランティア活動をすることは、高校生のときからの夢でした。研修医という未熟な自分が果たして JDM の一員として力になれるだろうか。島民の人達の治療をきちんとできるだろうか。初めての海外ボランティアへの期待と不安の中、活動が開始しました。私は口腔外科で研修をしていたため、主に抜歯での治療を行うことになりましたが、彼らの歯は歯根が長く簡単には脱臼してくれません。より丁寧に速くという意識のもと、ときには先輩ドクターに助けていただきながら治療を進めました。

私が一番驚いたのは 出発前に自分が想像していたよりも島民の口腔内がきれいだったことです。最悪の口腔内を想定していましたが、歯石も少なく、歯牙の欠損部位にはノンクラスプのデンチャーが入っており、臼歯部の咬合面には虫歯予防のシーラントが塗布されていました。歯のクリーニングをしてほしいという要望が多く、口腔清掃の意識の高さも感じました。全ての人がそうではありませんが、日本とそんなにかわらないんじゃないかというのが正直な気持ちでした。一緒に行った歯科衛生士さんから６歳臼歯を徹底的に守る大切さを聞いていたこともあり、これはＪＤＭの先輩方が長年行ってきた治療と予防の継続の結果が出ているのだなと実感しました。しかし、カオハガンの島外の人達に関しては、口腔内の状態は悪く、 時間がないため全ての処置を行えない歯がゆさも感じました。

診療が終われば島の人達がバスケットボールに誘ってくださって、子供と大人が混じって楽しみました。私自身バスケは全くの初心者だったのですが、子供でも大人でも僕がボールを持ったら、ちょっとハンデをくださってシュートを何回も打たせてくれたり、ドリブルを自由にさせてもらえたりで、勝ち負けよりもみんなが楽しめるようにというカオハガンの人達の優しい気持ちがすごく伝わりました。

食事に関しては、口に合わなかったりお腹をこわしてしまうのでは？と心配をしていましたが、毎日３回の食事が美味しく、野菜や果物をふんだんに使っていて、旅の疲れもなく、心も体も健康で元気になりました。

食事のあとは、カオハガン島の歴史や日本のこと、自分の夢や悩み、いろんなことをみんなで語り合いました。遠い国に同じ目的を持って来た仲間同士では壁もなく素直にお互いの考えを話合えました。今回の活動の目的とは違うかもしれませんが、この語り合った時間も自分にとって宝物になりました。

美味しい食事、素晴らしい景色とカオハガンの優しい人達、ＪＤＭの仲間に出会い、いろんなことを経験し学び、人として成長できた活動となりました。

継続は力なり。ＪＤＭでの活動は今回だけではなくて、無理せずにですが活動を続けていけたらいいなと思います。

## 中川 翔太（歯科医師）

「カオハガン島での活動に参加して。」

今回が僕にとって初めての JDM への参加だった。
カオハガンという島の予備知識もなく、歯科医師としてどのような活動をするのかしっかりとしたイメージがあるわけでもなくワクワクと不安が入り交じった心境で僕はセブ島からの船に乗っていた。船の中で沢田先生が波をみて佇んでいたので僕は聞いてみた。「最初にこの島に来た時から、ずっと続けようと思ってたんですか」沢田先生はこの医療活動を約２０年続けておられるのだという。どういう気持でそんなに長い時間継続することができているのかぼくは是非尋ねてみたかったのだ。
「崎山さんと約束したんや。やると決めたらとことんやる。それが男や。」
先生はそう答えた。

崎山さんはカオハガンに住んでいる人でこの島の所有者でもある。ふんわりとした雰囲気がなにもないこの島の風景に溶けこんでしまうような、力の抜けた佇まいの方だった。
僕たちは崎山さんと毎食食事を共にし夜な夜な語り合った。そして崎山さんが眠ってからも遅くまで沢田先生は僕たちの話に耳を傾けてくださった。先生の前にいると不思議なことに自分の口から素直な言葉がすらすらとでてくる気がした。語り合う中でぼくは僕自身が「ああ、自分はそういうふうに思っていたのか」と感じることが多くあった。
３日間にわたった診療の時でもまだ歯科医師として経験が浅く不安もある自分を先生はフォローしてくださり、そのおかげで技術的な成長を３日間のうちに感じることができた。日本では１日にこんなに抜歯することはないので今回の経験はこれからの臨床に役立てていけると思う。
今回は診断する機会はなかったけれど本来なら保存できるであろう歯を抜歯することを決断しなければならないのは本当に心が痛むことだ。島民のなかにはかなり離れた島から来ている人もおり保存的な治療を施してもしも痛みがでればその後のフォローが継続してできないというのがそう診断するひとつの理由だと聞いた。こういった状況では痛いから抜いてくれという島民の気持ちに答えるのがベストな方法なのかもしれない。
また、意外に審美的な主訴を訴えてくる患者さんが多く、美しさへの欲求というのは人間の根源的な部分なのだなと感じた。

JDM の活動で最も希望を感じたのは予防活動だ。長きにわたって小児患者の口腔内への予防的処置、第一大臼歯へのシーラント、啓蒙活動を行ってきた結果が目に見えて表れてきている。他の島の住人に比べるとカオハガン島のこどもたちの口腔内は、初めて来た僕にもその差がわかるほどきれいだ。カリエスが少なくなった日本に育った僕のような若い歯科医師には、口腔衛生学的な試みが実を結びつつあるのを実感することはめったにな

いのでこれには感動した。これからもう２０年経ってこどもたちが大人になった頃には「痛いので歯を抜いてほしい」ではなくて「きれいな歯をなんとか残してほしい」と言うに違いない。健康という概念は環境や時代によって変わるものでそれに対する治療もまた変わっていくのだ。

世の中ではいま「ソーシャルビジネス」というかたちで世界の格差を変えていこうという人達が増えてきている。これはいままでのような支援を中心とした協力ではなく現地の人々に資本を得ることができる仕組みを提案することでその人々を経済的に自立させ豊かにしていこうという試みだ。崎山さんが行っている島民へのキルト作りの指導などはこれにふくまれると思う。医療もボランティアという形ではなくこういったカタチで貢献していくべきなのかもしれない。一方的な支援では結局いつかは途切れてしまうじゃないかという意見もあるだろう。しかしぼくは思うのだ。ぼくたちが良かれと思ってその土地に資本主義的な競争原理を過剰に持ち込めば経済的にはそこは潤うかもしれないがその土地の文化はかわっていってしまうかもしれない。幸福の価値観も変わっていってしまうだろう。一度貨幣経済の荒波にのるともう抜け出すことはできないのだ。そういった意味で僕はボランティアの無償での奉仕という部分に可能性を見る。もちろんそれが続いていくためには揺るぎない情熱が必要だ。JDM という組織が沢田先生を筆頭にその火を絶やすことなく活動を続けているのは後進にとって大きな希望になる。なにが本当に良いことなのかはわからないが、こんな時代なのでぼくは人間の愛情こそが、世の中を良くしていくと信じたいのだ。

カオハガン島は何もない、美しい島だった。最終日に文化交流がおわって砂浜にたつ崎山さんに聞いてみた。「崎山さんはこの島はこのままであってほしいですか？」島の持ち主としてどう考えているのだろうと思ったからだ。
そりゃそうだよ。と崎山さんは答えた。そして、もちろん変わっていくとはおもうけどね、いいところは残してね、と付け加えた。変わってほしくないという思いと変化を求める人々の思いが上手く折り合いがつけばいいなと思う。その先にあるカオハガン島の姿はもしかするとこれからの僕たちの社会のあるべき姿に近いものなのかもしれない。
島の人達の笑顔が変わらないままゆるやかに移り変わっていってほしい。心からそう願っている。

## 長谷川　智哉（歯科医師）

『初めての海外ボランティア活動』

カオハガン島での活動はすべてが新鮮で魅力的な毎日でした。
もちろん始めはどんな環境で診療を行うか、どんな環境で日々を過ごすのか、現地の人達とうまくコミュニケーションがとれるのかなど、不安でいっぱいでしたが、JDM に参加した方々にサポートして頂き、その不安もすぐに解消されました。
しかし、診療初日、分かってはいたことではありますが日本とカオハガン島での治療の相違に心苦しい思いをしました。日本ではいかに歯を保存するかを考えるのに、カオハガン島では痛ければ抜歯するしかない

のです。それでも、現地の方々は抜歯をすると最後には握手してきて一言…『Thank　you』。
私はその一言ですべてが救われた気がしました。
それからはカオハガン島ではカオハガン島でできる精一杯のことをやろうと思い、毎日必死で診療を行いました。
また、カオハガン島は本当に美しく、きれいな夕日や現地の子供たちの笑顔で１日の疲れもすっかり忘れてしまうほどでした。その中で１番嬉しかったことは、帰国前夜にやんちゃでよく遊んだ子供に手紙をもらったことです。これには本当に感動しました。また JDM に参加し、今度は私が手紙を届けるつもりです。

今回、不安ながら活動に参加できたことを本当に感謝しています。
また、私をサポートしてくださった JDM の皆さん、本当にありがとうございました。

## 横井　宏海（ボランティア）

『ボランティア活動を終えて』

２０１１年７月９日から７月１８日までのタンナ島でのＪＤＭの活動にボランティアとして同行させて頂きました。
集合場所の関西国際空港ではタンナ島の人々のお役に立てるだろうか、皆さんの足手まといにはならないだろうかと不安だらけでした。
そして、７月１１日ついに活動地のタンナ島に入りました。皆さんがタンナ島に着いたとき何で、喜んでいらっしゃったのかその時は良くわかりませんでした。そして、その日の午後から活動が始まりました。皆さん生き生きとしながらやってらっしゃるので、ボランティアとはただ単に人を助けるだけでなく、その中から喜びを見つけるものなんだなと思いました。
次の日からは主に外回りに同行させていただきました。行った学校はフツカイｐｓ、ロイヤルｐｓ、レナケルｐｓ、ツフーｐｓ、ユーミットｐｓ、ラムカイルｐｓ、ラトゥーンｐｓ、の７校です。
どの学校も子ども達の笑顔がすばらしく先生も僕たちのことを歓迎してくれて嬉しかったです。

そして、金曜日にはヤスール火山へ連れて行って頂きました。ヤスール火山の噴火の姿はとても豪快で身がたじろぎました。そしてその姿がバヌアツという国の力強さを感じることができました。
そして、ついにタンナ島を出る日が来てしまいました。その日の朝は起きたくない、
そう思うほど寂しく思いました。
そして５日間お世話になった診療所の片付けをした後病院を出ました。
西川さん達との別れは本当に寂しかったです。
その後、田代さんのお墓参りをしました。皆さん泣いてらっしゃったのでそれ程
素晴らしい方だったのだと思いました。

その後ホワイトグラスというリゾート地に行きました。でも、そこより現地の方がいいと思いました。それ程現地に対する思いが深くなったのだと思いました。

　そして飛行機がタンナ島から離陸したとき、なぜ皆さんがタンナに着いた時喜んでいらっしゃったのかわかりました。

　ぼくは、もう一度この国、この島、に戻ってきて、もう一度皆さんと活動し、
もう一度ボランティア活動から喜びを見つけて行きたいと思いました。

## 早川 成人（歯科医師）

『カオハガン初参加の感想』

以前、パプアニューギニアにて航空関連分野で、JICA 関連の途上国支援の仕事をしておりましたが、そんな背景もあり、歯科医師になってからも、”海外での歯科ボランティア活動に参加してみたい”　という思いをずっと持ち続けておりました。そんな時、偶然　知人の先生を介して JDM のホームページを教えていただき、その活動内容を初めて知り、ぜひとも参加したい　と思いました。しかし、初参加の不安が大きかったため、沢田先生にお願いして、いろいろとお話をきかせていただき、アドバイスいただくことで、今回の参加を決意するに至りました。

カオハガンでの診療は、予想以上の環境の違いに戸惑いながらも、ボランティアの経験をつまれてるドクター、スタッフの皆様に助けていただきながら、なんとか診療をすすめていくことができました。また、これまでの活動の成果をずっと追跡調査されてきた大西さんのチームに加えていただいた事も貴重な経験になりました。長い間の JDM の活動が、すこしづつ島の人たちの意識をかえてゆき、結果がでてきていることが、口腔内写真をとおして、感じることができました。

島の生活では、診療がおわってからのドラム缶風呂と美味しい食事も楽しみでしたし、風呂につかりながら見た夕方の島の風景は、とても印象的でした。また、純朴な島の人たちの生活にふれることができたことも、忘れかけていたものを思い出させてくれる気がしました。

初日に　沢田先生から　”ボランティアのかきくけこ”　を教えていただきましたが、カオハガンでの活動の中だけでなく、日常の診療のなかでも、その心構えを忘れない様、心がけたいと思います。　帰りの機内では、思いもかけず体調をくずし気分が悪くなり、皆様にご心配をおかけしました。この場をかりて、おわびとお礼をもうしあげます。（後日病院に行ったら、”良性発作性頭位めまい症”と診断されました。体力には自信があったつもりが、、、”け”の健康管理をリマインドいたします）

最後に、同じ思いを共有する JDM の一員として、この活動に参加出来ました事を　今回参加の皆様と JDM 関係各位の皆様に、深く感謝いたします。

# 国際交流

## 八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流

八尾市立南山本小学校
教諭　津﨑　惠子

## 「違いを認め合う」仲間づくり

### 年間を通してヴァヌアツ共和国との文化交流を行う意義を考えながら

### 1．実際の交流として

実際に交流をしているタンナ島の子ども達の生活の様子は沢田先生（ジャパン・デンタル・ミッション理事長）が来て下さる度に映像で見せていただいている。子どもたちは遥か彼方のヴァヌアツをすぐお隣の国のような感覚で、自分たちの取り組みをつなげながら見ているような感じである。全く異なる文化の子ども達に思いを馳せながら、自分たちの取り組みがヴァヌアツの子どもたちに少しでも役立っている・・という確認もしているようである。日本と比べればタンナ島はほんとに不便で生活は厳しく暮らしは大変だと思うが「世界で一番幸せな国・ヴァヌアツ」という意味を考えながら、エンピツボランティアを行った。続けていきたいと考えている。

子どもたちが描いたタペストリーをラナケル小学校の教室に飾ってもらおう！と計画を立て、6 人グループごとに大きな白い布に自分の似顔絵や手形、メッセージや名前を描いた。放課後たくさんの保護者の方にお手伝いいただき、各クラスごとに 6 枚をつなぎ裏打ち用の布を合わせベッドカバー程の立派なタペストリーが完成した。

7 月、この作品を沢田先生に託しヴァヌアツまで持って行っていただいた。10 日間のボランティア活動を終えられた沢田先生はラナケル小学校の子どもたちが描いたタペストリーを持ち帰って下さった。会ったことも話したこともないけれど、目には見えない不思議なつながりを感じる。

### 2．心をどう育てるか・何を学ばせるか

朝鮮通信使の真文役である雨森芳洲の言葉に「欺かず争わず誠信の交わり」という言葉の意味を学習した。どんなときにおいても相手の立場に立って誠実でまごころを込めて事を行うことの大切さを説いたものである。ヴァヌアツとの取り組みも根底にあるものは同じであるということを子どもたちは気づき始めているようである。子どもたちの成長過程の大切な根幹部分をこの小学校の時期にしっかり根を張らせたいと思っている。この学習をしたから〇〇が身につくというものではないが、卒業までの間、コツコツと地道に人としてどうあるべきかを子どもたちにわかりやすく、時には厳しく話していきたいと考えている。

子どもたちに、何を学ばせるか・・・。自分自身を見つめ直し、何が大切なのかを見抜く力をつけさせたいと常に思う。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して「自分たちはどう生きるべきか」ということを子どもたちに考えさせたいとも思う。沢田先生の生きざまから何かを感じ取ってほしいと思い、学期に一回ごとの授業をお願いしている。ボランティアを始めたきっかけ、挫折感を味わっ

た頃、感動で胸が熱くなったとき、「引きこもり」や「いじめ」にあった子どもたちと共にヴァヌアツの夜空を眺めて語り合ったとき・・・。数々の体験談をシャワーのように子どもたちに浴びせてほしいとお願いした。教科学習の定着は言うまでもないが、いろいろな人々の生き方から学ぶということはそれ以上に大切ではないかと考えている。

### 3．ある日の授業（保護者への通信文）

今回のお話は子どもたちには少し難しいかなと思いましたが、敢えてこのテーマにしていただきました。中学生の時にひきこもりになり、高校入学後 1 年生の 2 学期で中退し、目的もなくゲームに心のよりどころを求めていた「新井さん」の体験談が教材でした。

新井さんが、何となくヴァヌアツのボランティア活動に参加することとなり、沢田先生らと共に 10 日間を現地で過ごす中で次第に自分の意識が変わっていく・・・。帰国してからは、自分には仲間がいること、自分は生かされていることなどに気づき、音楽大学に合格するまでのことを、新井さん自ら書いた文から学びました。

**「仕事は自分で見つけるもの。」「自分は必ず誰かの役に立っている。」**
**「生かされていることに感謝すること。」「私も変われるような気がする。」**
**「周りからかけてもらった言葉がきっかけで一歩前に進むことが出来る。」**…

子ども達の心の中に様々な思いが生まれました。今は難しいかもしれないけれどいつかきっと、こういう授業の中の一つでも「あぁ、こういうことやってんなぁ。」と思いだしてくれることを信じてこれからも頑張ろうと思います。

### 4．2 月。昨年から数えて 6 回目の沢田先生の授業

今回は東日本大震災のボランティアに行かれた様子を話して下さった。子どもたちには筆記用具を持たさず「耳と心でしっかり聴くように。」と伝えた。東北でのボランティア活動の様子を映像で 15 分間見た後、先生からのたくさんのメッセージをいただいた。

**子どもたちの感想（抜粋）**

**○今回、東日本大震災の現地で撮ったビデオを見て、人は支え合って生きているんだと改めて思いました。全国から集まった歯ブラシ 1 本 1 本に熱い思いが込められていて感動しました。津波で全てを流されたから、毎日生活する中で必要なものを一から作らなければならないので本当に大変だなぁと思いました。震災のあった東北地方と、私たちの普段の生活を比べたら私たちの生活は本当に幸せだと思います。温かいご飯を食べることも、お風呂にゆっくりつかれることも、どんなにささいな事でも幸せだと思う事が大切だと思います。今までの 2 年間を通して命の大切さ、物の大切さ、そして何より人と人とがつながる大切さを学習しました。**

**○震災後の問題は、衣服や食料などと思っていましたが、歯の問題も大事ということを分かっていませんでした。入れ歯などは特に大事だと思います。歯も磨けないのも困ると思います。だから、そういうボランティアは本当**

**に助かると思います。また集められた歯ブラシについていたメッセージはどれも励みになるようなものばかりで感動しました。大切なのは、分け合う心。自分だけでなく、他の人と分け合うというのは本当に生きていく上で必要な事だと思うし、みんながやれば争いのない平和な世界になると思います。**

**○今、世界中で生きている人々は、東日本大震災で亡くなられた方々のために精一杯生きなければならないと思います。そして、私たちは生きる喜びを感じないといけないと今回の授業を聞いて改めて思いました。大切にしないといけないと思うのは、ほうれんそう（報・連・相）や、かきくけこ（か…感動、き…協力、く…工夫、け…健康、こ…行動力）や分かち合う心。そして、人生とは、有頂天にならず、くよくよせず、元気でいなければならないということを守りたいです。**

**○今日はヴァヌアツのことじゃなくて東日本大震災のことについての授業だった。小学校でも募金活動や、震災について知ってもらう活動をしました。写真をみて思ったことがいっぱいある。一つはスタッフの人は、いつでも明るく元気があること。しんどいから元気がない、でもうちらよりしんどいのは東北の人なんだから、ずっと元気でいようと決めたんだと思う。二つ目は、スタッフの目。歯の治療をする時の目、すごく真剣な目だった。あの真剣な目を見ると、本気で取り組んでいる気持ちが伝わってきた。私たちはあんな目になったことがあるのか、本気でそのことに取り組んでいるのか。多分出来ていないと思う。だから、沢田先生が言っていたとおり、授業もだるい、とか言わずに、真剣に取り組もうと思う。今日の授業は、大切なことがいっぱいあった。一つは、いつでも元気よく、二つ目は、どんなことでも真剣に取り組む気持ち。私は二つしか見つけられなかったけど、見つけられた二つのことをしっかり覚えておきたいです。**

## 5．終わりに

本学年に絞っての取り組みであったが、やがて巣立っていく子どもたちの心を耕し、最も大切なことは何なのかに気付かせ、生きる力を育てる一助になればと考えた。学校の顔である高学年に誇りと自覚を持たせ、自己管理の出来る人間になって欲しいという願いを、毎日の授業の中で取り組むことは当然ではあるが、さらには視野を広げいろいろな人々の生き方から多くを学びとることも大切ではないかと思う。そのためには私たち指導者の生き方も、温かく且つ毅然とした態度で子どもたちと向き合わなければならないと思う。若い職員が増える中、こうした取り組みを見せることが教育現場では必要ではないだろうか。

明るく笑顔で
仲良く友達と

テーマ
信頼
つながり
友情

# 寄付活動

## フィリピン　カオハガン島への寄付

カオハガン島でのボランティア歯科治療は 1996 年 5 月より始まって以来 16 年目となります。　このたび、カオハガン島の属するラプラプ市の PAZ C RADAZA 市長が長年のＪＤＭの活動に感激され、感謝状を授与されることになりました。沢田代表は毎年、崎山氏と共に市長を表敬訪問し、JDM の活動報告を行うと共に活動のために行って頂いている政府のサポートに感謝の気持ちを伝えています。

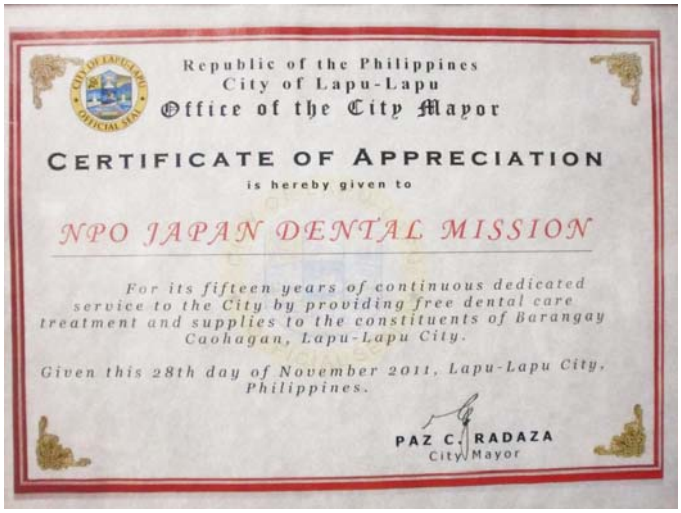
我々が沢山の歯科機材や寄付品を持ち込む時に、すんなり税関を通り、島の人々のお役に立てているのは、このような政治的配慮がなされているがゆえであります。また、ここ数年、マニラ空港で、セブへの乗り継ぎ時に、フィリピン観光大使から JDM メンバーにレイをかけて頂いています。これもその配慮の１つで、生花のすずらんのようなレイの香りが癒しとなり、その後始まる活動のプレリュードのように感じられます。

1996 年当時のＪＤＭの報告書を紐解くと、当時の総患者数はわずか 15 名です。
崎山氏が島民の歯の健康状態があまりにも劣悪なので、ＪＤＭにボランティア歯科治療の要請をしましたが、島民にしてみれば最初は招かれざる団体に過ぎませんでした。

それから 16 年、現在では 2 月と 11 月の年 2 回、活動を行い、1 回約 4 日間の患者数は 200 人以上にも上ります。一日の最高患者数が 87 名という日もありました。

ヴァヌアツでの我々の義歯製作の経験が充分に生かされ、歯科技工士の参加が多い活動時には毎回カオハガンだけでなく、周辺の島々からの沢山の島民が船に乗って、治療を受けに来られるようになりました。時代と共に、口の健康に関心を持って頂けるようになったことは、日本の歯科医療の技術の素晴らしさ、そして歯科医師、歯科技工士、衛生士、ボランティアの皆様の誠意と優しさの集積の賜物ではないかと思います。

ボランティアには自らの責任で判断する自主性が必要です。世の中には損得だけで判断してはいけないことがあるということを示すこと、そして、力が及ばずにいる人に、生きていく喜びを与えることが何よりも大切だと思います。　今回の感謝状の授与にあたり、改めて、これまで諸先輩方々が継続してこられたＪＤＭの活動が根付いてきたことに感謝すると共に、人と人との絆を大切にしていきたいと感じました。
寄付品の内容は、歯ブラシ、ノート、サッカーボール、バレーボール、文房具、古着、口腔衛生啓蒙ポスター等。


Republic of the Philippines
City of Lapu-Lapu
Office of the City Mayor

CERTIFICATE OF APPRECIATION
is hereby given to

NPO JAPAN DENTAL MISSION

For its fifteen years of continuous dedicated service to the City by providing free dental care treatment and supplies to the constituents of Barangay Caohagan, Lapu-Lapu City.

Given this 28th day of November 2011, Lapu-Lapu City, Philippines.

PAZ C. RADAZA
City Mayor

感謝状

15 年に亘る、ラプラプ市カオハガン島の住民に対する継続的かつ、献身的な無償の歯科治療サービスに対し、感謝の意を表します。

カオハガン前村長、崎山氏、沢田代表、PAZ C RADAZA 市長

# 国内活動

| | |
|---|---|
| 4 月 20 日（水） | 大阪西南ロータリークラブにて「南太平洋での歯科医療奉仕活動と青少年育成について」卓話、代表沢田宗久 |
| 4 月 20～23 日 | 宮城県石巻市、避難所に仮設風呂設置する。参加者⇒山本喜代 |
| 4 月 26 日（火） | 三菱東京ＵＦＪ銀行心斎橋支店において、義援金講座を開設し、東日本大震災の義援金活動を行う。 |
| 5 月 21～28 日 | 宮城県石巻市、体育館にて歯科活動（主訴の応急処置、入れ歯修理、口腔ケアなど）参加者⇒上崎秀美・久保田敬子・山崎亜希子・黒飛一志・川畑小夜・栗生茉莉恵田岡杏子 |
| 6 月 15 日（水） | 八尾市立南山本小学校にて「ヴァヌアツ共和国でのボランティア活動について」授業。参加者⇒代表沢田宗久・岩本浩平・栗山雅行 |
| 6 月 26～30 日 | 宮城県気仙沼市、被災者宅等の瓦礫撤去作業　参加者⇒山本喜代 |
| 8 月 8 日（月） | 大阪船場ロータリークラブにて「ヴァヌアツ共和国での医療奉仕活動を終えて」卓話代表沢田宗久・横井広海（感想文発表） |
| 8 月 23 日～25 日 | 宮城県気仙沼市、仮設住宅での歯科健診及び口腔ケア　参加者⇒久保田敬子 |
| 9 月 1 日（木） | 集積した義援金を日本赤十字社に寄付、尚継続的に義援金活動を行う |
| 9 月 6～9 日 | 岩手県遠野市へ仮設住宅のコミュニティーでのタッピング･タッチ岩手県大槌市で瓦礫撤去作業など。参加者⇒倉橋朋子 |
| 10 月 19 日（水） | 八尾市立南山本小学校にて「ヴァヌアツ共和国でのボランティア活動について」授業参加者⇒代表沢田宗久・根来登・栗山雅行 |
| 12 月 19 日（月） | 大阪船場ロータリークラブにて、「東日本大震災での JDM ボランティア活動について」卓話　参加者⇒代表沢田宗久・久保田敬子 |
| 1 月 24 日（火） | 弥生会（異業種会）にて「東日本大震災でのＪＤMボランティア活動について」卓話代表沢田宗久 |
| 1 月 31 日（水） | 八尾市立南山本小学校にて「東日本大震災での JDM ボランティア活動について」授業　代表沢田宗久・小山章松・栗山雅行 |

3 月 6～8 日　　和歌山県那智勝浦へ那智勝浦色川にて土砂の除去作業。（台風１２号土砂災害・災害ボランティア）参加者⇒倉橋朋子

3 月 7 日(水)　　大阪フレンドロータリークラブにて「南太平洋での歯科医療奉仕活動と青少年育成について」卓話　代表沢田宗久

3 月 16 日（金）　　八尾市立南山本小学校卒業式出席　代表沢田宗久

山本喜代さん（下段右）

倉橋　朋子さん（写真左）

# 東日本大震災活動報告書

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災及び津波被害の被災状況に対し「自分たちに出来る事を！」という思いを持ったボランティアが集まり、日本ユニバ様・ｔｅｅｔｈ　ｂｒｕｓｈ　ａｉｄ様・ＪａｐａｎＤｅｎｔａｌＭｉｓｓｉｏｎ様・医療法人プライムケア様・全国の歯科医院様のご支援に支えられ、現地にて歯科医療のボランティア及び医療品・その他生活用品の配布運搬の手伝いをさせて頂きました。
この活動に各地から集まってくれた仲間にｔｅａｍ名をつけさせて頂いたのが「助太達」です。

場所　　宮城県・岩手県の被災地
期間　　２０１１年６月２１日～６月２７日
参加メンバー（ＪＤＭ会員＝★・非会員＝☆）12 名
（上段左から）　影山龍市(☆D)　田岡杏子（★Ｄ ）　仲村信慶(☆D) 黒飛一志（★Ｄ）
上崎　秀美(★D) 久保田敬子（★ＤＨ）今村ちひろ（☆Ｄ）神崎崇（☆Ｖ）川畑小夜（★ＤＨ）
（下段左から）栗生茉莉恵(★D) 山崎亜希子(★ＤＨ) 藤田典子(☆ＤＨ)
被災された方（娘）・被災された方（体育館のまとめ役）・被災された方（母）・被災された方・被災された方

参加者

| | |
|---|---|
| 岡山県・・・１名 | 歯科医師・・・・・７名 |
| 大阪府・・・７名 | 歯科衛生士・・・・４名 |
| 千葉県・・・２名 | ボランティア・・・１名 |
| 宮城県・・・２名 | |

活動場所

医療活動・・・住吉小学校・開北小学校・中里小学校・石巻中学校・（石巻市）・石巻高校・釜会館ひたかみ園（不動町）・桃生総合センター

運搬配布・・・石巻・女川町・気仙沼・釜石・遠野・大槌・山田（宮城県・岩手県）

受診人数・・・ＴＯＴＡＬ　72 名

22 日　２２名　　23 日　　７名

24 日　２２名　　25 日　２１名

21 日 26 日 27 日　運搬その他の活動

## 活動内容

**5 月 21 日（土曜日）**

午前中から被災地入りし、お風呂の設置ボランティアに参加する者、臨床の仕事を終え、駆け付ける者、遠方より丸一日かけて駆け付ける者、それぞれが同じ思いをもって、夜！９名の参加者が各地より、宮城県大衡村の活動拠点となる東北中央教会（宿泊ご協力）に集まった。

教会にはＪＤM理事長の沢田先生のご手配（日本ユニバ様・ToothBlushAid 様協力）で全国の歯科医院様から集まった歯科医療物資の箱が山積みとなっていました。物資には被災地へのメッセージが溢れていて、本当にたくさんの方々の温かい思いが集まっている事、その代表として、被災者の方々に直接触れさせて頂く責任を深く感じました。

深夜近くのミーティングにおいて、活動の発起人となるＤＨ藤田から今回の活動場所・活動内容の詳細説明、参加者の自己紹介が行われました。

**５月２２日（日曜日）**

あいにくの雨模様で１日がスタートです。

仙台駅にて３名の参加者と合流し、12 名全員が集合しました。

宮城県石巻高校体育館と、隣接する石巻中学校体育館のふた手に別れ、活動が始められました。ボランティア経験者が多かったため、スムーズに医療ブースの設置も行われ、午前～午後に渡って診療が行われました。

日中は被災所でも外出される方が多く、海外でのボランティアと違いゆっくりとした診療の中で被災された方とボランティアとのコミュニケーションがあちらこちらで見られました。夕方、全員でミーティングが行われた後、本日のみの参加者は後ろ髪を引かれつつ帰路につかれました。

５月２３日（月曜日）

朝夕の冷えと昼間の暑さの温度差に戸惑いつつ、皆、朝から元気に活動を開始した。

本日は８名が石巻高校と石巻中学に別れての診療を行った。午後からは２名が帰路につき、残る６名で保健所より要請のあった被災者の要望をリサーチするため、石巻市内の被災所や学校を巡回し、直接被災者の方々にお声を掛けさせて頂き、要望をお伺いした。

既に歯科医療が定期的に巡回して来る被災所もあれば、１度も医療の介入を受けていない被災所もあり、ボランティア介入の偏りを感じた。

５月２４日（火曜日）

昨日のリサーチの必要に応じ６名が、釜会館・ひたかみ園・中里小学校・住吉小学校にて、それぞれ午前・午後を上手く利用し活動した。Ｄｒの参加が多かった事が功を奏した。

それぞれがいくつかの被災所を経験して、被災所によってあらゆる面で「違い」がある事に気付き始めました。それぞれの被災所に必要とされる事を行えるよう、「聴く」事の大切さを実感しました。子供達にアンパンマンのバルーンを作ってプレゼントする事も出来ました。夜、1名が帰路につかれました。

５月２５日（水曜日）

昨日に引き続き、必要に応じた活動の振り分けがされ、石巻中学校・開北小学校・住吉小学校・桃生総合センターで診療が行われた。

活動場所を離散させる事で時間の有効利用ができる半面、物資の種類不足をアイデアで補う必要があったが、とても順調に各所で活動が行われました。

５月２６日（木曜日）

Ｄｒ２名ＤＨ3 名が活動を継続。

今日より医療ボランティアから物資運搬を中心とする。朝、教会を出発し、石巻→女川町→南三陸町→気仙沼へと北上しながら小さな被災所を巡り、気仙沼の保健センターを訪れた。保健センターにて活動の報告や情報の交換がされた後、最終残ったボランティア５名がこの日をもって解散した。

2 名は石巻に戻り活動の片付けと最終診療を担って下さった。2 名はさらに北上し、支援物資の運搬を継続。1 名は帰路につかれました。

総括

ＪＤＭボランティア活動 番外編 作戦名(助太達・スケダチ)
東日本大震災に対しジッとしていられないＪＤＭ有志が立ち上がり、東北ＪＤＭメンバー、他府県歯科医師、歯科衛生士、ボランティアとともに、日本ユニバ、tooth aid Japan の協力を得て活動してまいりました。
当初１２名でスタートし、最終２名で終了。
被災地で、できる事を、できる時に、出来るだけ、と心がけてやって来ました。
避難所の格差、物資、マンパワーの偏在など、なぜ、、、と戸惑う事もありましたが、困っているなら手を差し伸べようという思いだけで全員が活動していたように思います。
しかし、現場を見て来てまだ、これは始まったばかりで道は長いように感じました。我々のような、個人ボランティアにはいろんな壁がありますが、継続が必要ではないかということがこころ残りでした。
これから、梅雨の食中毒シーズン、猛暑の夏を乗り切れるのか老婆心ながら心配です。
これからも、無理ない範囲で、日本の危機に対応したいと思います。
一刻も早い復興を祈って活動報告をおわります

ＪＤＭ助太達代表　上崎秀美

## データ

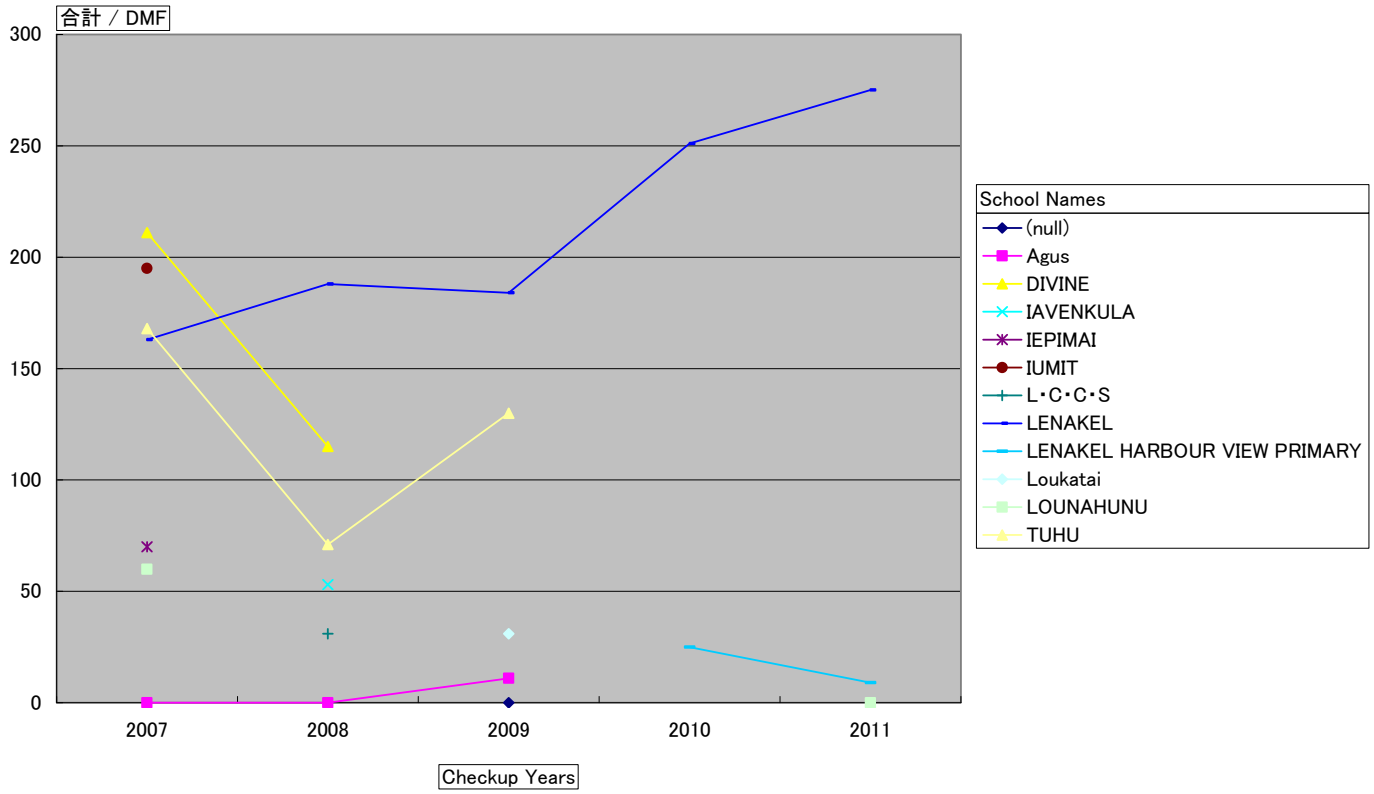
## 治療結果

| | 22日 | 23日 | 24日 | 25日 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 抜歯 | | | | | |
| CR | 4 | 1 | | | |
| セメント | 1 | 2 | 1 | 2 | |
| サホライド | | | | | |
| 根治 | | | | | |
| SC | 1 | 1 | 8 | 4 | |
| 義歯修理 | 3 | 3 | 9 | 12 | |
| PTC 他 | 22 | 4 | 8 | 11 | |
| | | | | | total |
| 受診人数 | 22人 | 7人 | 22人 | 21人 | 72人 |

ヴァヌアツの小学校の DMF 指数

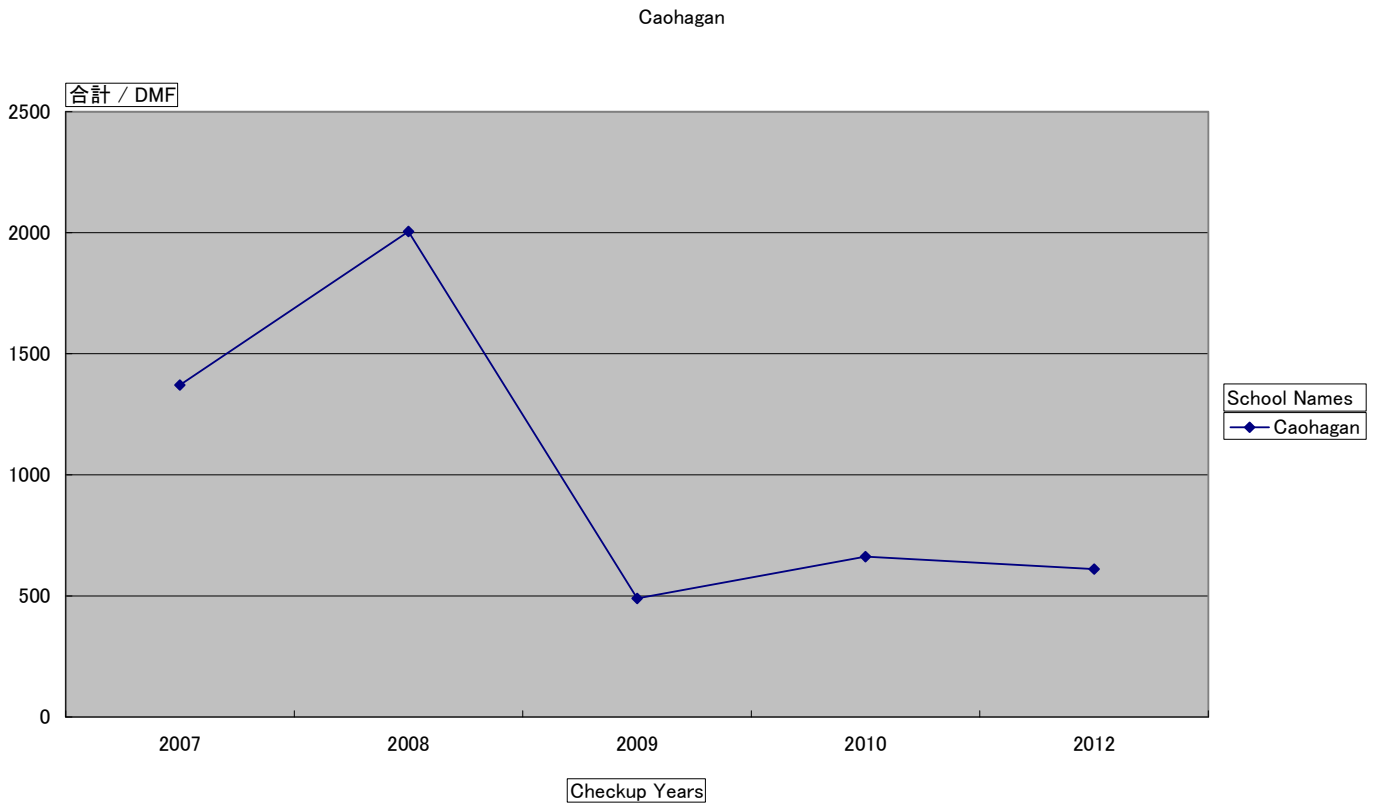
| | | 検査年 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校名 | データ | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 |
| Agus | 合計 ／ DMF | 0 | 0 | 11 | | |
| | 合計 ／ D | 0 | 0 | 11 | | |
| | 合計 ／ M | 0 | 0 | 0 | | |
| | 合計 ／ F | 0 | 0 | 0 | | |
| | 検査人数 | 4 | 8 | 18 | | |
| | 平均 : DMFT | 0.0 | 0.0 | 0.6 | | |
| DIVINE | 合計 ／ DMF | 211 | 115 | | | |
| | 合計 ／ D | 210 | 114 | | | |
| | 合計 ／ M | 1 | 0 | | | |
| | 合計 ／ F | 0 | 1 | | | |
| | 検査人数 | 250 | 210 | | | |
| | 平均 : DMFT | 0.8 | 0.5 | | | |
| IAVENKULA | 合計 ／ DMF | | 53 | | | |
| | 合計 ／ D | | 51 | | | |
| | 合計 ／ M | | 2 | | | |
| | 合計 ／ F | | 0 | | | |
| | 検査人数 | | 182 | | | |
| | 平均 : DMFT | | 0.3 | | | |
| IEPIMAI | 合計 ／ DMF | 70 | | | | |
| | 合計 ／ D | 70 | | | | |
| | 合計 ／ M | 0 | | | | |
| | 合計 ／ F | 0 | | | | |
| | 検査人数 | 118 | | | | |
| | 平均 : DMFT | 0.6 | | | | |
| IUMIT | 合計 ／ DMF | 195 | | | | |
| | 合計 ／ D | 174 | | | | |
| | 合計 ／ M | 21 | | | | |
| | 合計 ／ F | 0 | | | | |
| | 検査人数 | 268 | | | | |
| | 平均 : DMFT | 0.7 | | | | |
| L･C･C･S | 合計 ／ DMF | | 31 | | | |
| | 合計 ／ D | | 30 | | | |
| | 合計 ／ M | | 1 | | | |
| | 合計 ／ F | | 0 | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 検査人数 | | 60 | | | |
| | 平均 : DMFT | | 0.5 | | | |
| LENAKEL | 合計 / DMF | 163 | 188 | 184 | 251 | 275 |
| | 合計 / D | 160 | 181 | 181 | 251 | 269 |
| | 合計 / M | 3 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| | 合計 / F | 0 | 5 | 2 | 0 | 3 |
| | 検査人数 | 250 | 278 | 298 | 246 | 298 |
| | 平均 : DMFT | 0.7 | 0.7 | 0.6 | 1.0 | 0.9 |
| LENAKEL Harbor view Primary | 合計 / DMF | | | | 25 | 9 |
| | 合計 / D | | | | 25 | 9 |
| | 合計 / M | | | | 0 | 0 |
| | 合計 / F | | | | 0 | 0 |
| | 検査人数 | | | | 30 | 6 |
| | 平均 : DMFT | | | | 0.8 | 1.5 |
| Loukatai | 合計 / DMF | | | 31 | | |
| | 合計 / D | | | 31 | | |
| | 合計 / M | | | 0 | | |
| | 合計 / F | | | 0 | | |
| | 検査人数 | | | 68 | | |
| | 平均 : DMFT | | | 0.5 | | |
| LOUNAHUNU | 合計 / DMF | 60 | | | | 0 |
| | 合計 / D | 60 | | | | 0 |
| | 合計 / M | 0 | | | | 0 |
| | 合計 / F | 0 | | | | 0 |
| | 検査人数 | 108 | | | | 2 |
| | 平均 : DMFT | 0.6 | | | | 0.0 |
| TUHU | 合計 / DMF | 168 | 71 | 130 | | |
| | 合計 / D | 161 | 62 | 130 | | |
| | 合計 / M | 7 | 9 | 0 | | |
| | 合計 / F | 0 | 0 | 0 | | |
| | 検査人数 | 346 | 332 | 324 | | |
| | 平均 : DMFT | 0.5 | 0.2 | 0.4 | | |
| 全体の 合計 / DMF | | 867 | 458 | 356 | 276 | 284 |
| 全体の 合計 / D | | 835 | 438 | 353 | 276 | 278 |
| 全体の 合計 / M | | 32 | 14 | 1 | 0 | 3 |
| 全体の 合計 / F | | 0 | 6 | 2 | 0 | 3 |
| 全体の検査人数 | | 1,344 | 1,070 | 712 | 276 | 306 |
| 全体の 平均 : DMFT | | 0.6 | 0.4 | 0.5 | 1.0 | 0.9 |




フィリピン　カオハガン島の DMF 指数

| School Names | データ | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2012 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Caohagan | 合計 / DMF | 1,371 | 2,005 | 489 | 662 | 610 |
| | 合計 / D | 876 | 1,224 | 415 | 510 | 339 |
| | 合計 / M | 366 | 556 | 18 | 13 | 93 |
| | 合計 / F | 129 | 225 | 56 | 139 | 178 |
| | 検査人数 | 236 | 412 | 134 | 144 | 176 |
| | 平均 : DMFT | 5.8 | 4.9 | 3.6 | 4.6 | 3.5 |
| 全体の 合計 / DMF | | 1,371 | 2,005 | 489 | 662 | 610 |
| 全体の 合計 / D | | 876 | 1,224 | 415 | 510 | 339 |
| 全体の 合計 / M | | 366 | 556 | 18 | 13 | 93 |
| 全体の 合計 / F | | 129 | 225 | 56 | 139 | 178 |
| 全体の 検査人数 | | 236 | 412 | 134 | 144 | 176 |
| 全体の 平均 : DMFT | | 5.8 | 4.9 | 3.6 | 4.6 | 3.5 |


Caohagan
合計 / DMF
2500
2000
1500
1000
500
0
2007
2008
2009
2010
2012
Checkup Years
School Names
Caohagan

# 2011 年度の学術報告

2011 年は、引き続きこれまで行ってきた歯科に関する相対的な啓発を目的とした講義を、7 月 11 日、12 日の 2 日間、マレクラ島、ラカトロの会場で行いました。　これまで、首都のポートヴィラやエスプリットサント島のルーガンビルで同様の活動を行ってきましたが、その都度参加者の方々に喜んでもらえたように感じていました。しかし今年度は、参加した方々に、今ひとつ自分たちの想いが伝わらなかったように思います。　なぜそのような空気になってしまったのかを反省しなければいけないと考えております。今、振り返って思い当たる事柄としては、

1. 我々のマンネリ化による緊張感の欠如。やはり何年もほぼ同じ内容での講義は、講師に惰性を生ませてしまいます。その惰性は、空気として聴衆にも伝わります。私自身が緊張感を維持するためにも、講義内容をどんどん更新していかなければならないと痛感しました。特に今年度は、出発前から私自身が発熱、というアクシデントに見舞われ、健康管理ができていなかった自分自身を猛省しております
2. 準備不足。毎年のことですが、会場に延長コードがなかったり、暗幕がなかったり、ひどい時にはスクリーンがなかったりします。今年も暗幕のない会場でしたので、スライドを聴衆の人達がしっかりと見る事ができたのか、不安が残ります。
3. タイトなスケジュール。日本で診療所を抱える我々は、少しでも効率よく活動したいと考え、スケジュールを立てて行きますが、現地では、交通機関の遅れや、変更は日常茶飯事です。その事を考慮すれば、もう少し余裕のある旅程が必要なのでしょう。今年度もヴィラからノルスープへの移動が飛行機のキャンセルで 1 日遅れてしまい、本来我々の講義を受けるつもりでいたマレクラ島の方々のうち、何人かは参加出来なかったように聞きました。次回からは上記の反省を踏まえ、旅程を考えたいと思います。
4. ヴィラの厚生省と、地方の島々とのコミュニケーション不足。今年度はヴィラと現地との連絡不足が特に多くありました。これについては、7 月 13 日にヴィラに戻ってすぐに Rory と会い、今後のヴィラと各島間の連絡を密に取るように要請しておきました。

また、近年のヴァヌアツでの我々の活動の在り方も、少し見直すべき時期に来ているように感じています。ここ数年は、所謂「ハコモノ」の贈呈が多く、単なる日本からの運び屋になっていないでしょうか？

今一度活動の原点に帰って、「ヴァヌアツの人々の幸せに繋がる活動とは何か？」ということを考えていかなくてはなりません。

我々が厳に慎むべきは、彼等の重荷になることです。質の高い、中身のある活動を継続して行くべきだと考えています。

以上、2011 年度学術報告とさせて頂きます。

# ジャパン　デンタル　ミッションについて

| Year | 沿　革 |
|---|---|
| 1982 | 歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る |
| 1983 | 眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始 |
| ・<br>・<br>・ | 沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。 |
| 1995 | 活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立 |
| 1996 | フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始 |
| ・<br>・ | ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。 |
| 2003 | 組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション」に変更 |
| 2004 | ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。 |
| 現在に至る | |

# ジャパン　デンタル　ミッション活動方針

1.　歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2.　文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3.　生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

・文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4.　青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

# 協力者名簿

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学　口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立高津小学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中央小学校
- 大阪市立中大江小学校
- 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 尾崎歯材(株)
- 川西市歯科医師会
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- クリエイト(株)
- グラクソ・スミスクライン(株)
- 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- コクヨ S&T(株)
- サクラクレパス(株)
- 沢井製薬(株)
- 笹野電線(株)
- 沢田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- ｽﾎﾟｰﾂﾈｯﾄﾜｰｸｼﾞｬﾊﾟﾝ
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- セキセイ(株)
- 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 大平工業(株)
- 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- 株式会社ツサカ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- 有限会社トリビ
- ナカガワ(株)
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- ニッタハウス(株)
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 根来(株)
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- (有)ハマダデンタルサプライ
- (株)林
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- 不二印刷(株)
- ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ(株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- 八尾ロータリークラブ
- 八千代オート(株)
- 山貴産業(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- Greenpath Corporation
- JICAヴァヌアツ支所
- NPOセンター
- TKX(株)
- UHA味覚糖(株)

**本年度寄付を頂いた皆様**　　50音順　敬称略

- 東　定子
- 一柳　完治
- 稲垣　明仁
- 井本　啓子
- オーエム歯材
- 尾崎歯材(株)
- 斧原　周子
- 片岡　清夫
- 金沢　啓文
- 金本　裕光
- 河崎　津紀
- 川田　修弘
- 河内　光明
- (株)共和ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ
- ｷﾝﾁｮｰ　大日本除虫菊(株)
- 工藤　武男
- 桑原　邦男
- (株)サクラクレパス
- 佐々木　孝子
- 澤田歯科
- 柴山　康範
- (株)昭和
- 船場ロータリークラブ
- 滝　晴子
- 武内　仕女子
- 武安　俊子
- トキワ文具(株)
- 内藤　一馬
- 内藤　吉子
- ナカガワ(株)
- 中野　栄津子
- 中原　道明
- 西岡　瑳千恵
- 白水貿易(株)
- 羽原歯科
- (有)ﾊﾏﾀﾞﾃﾞﾝﾀﾙｻﾌﾟﾗｲ
- 藤井　ツギ
- 藤本　茂子
- 馬渕　ひづる
- 三木　都
- (株)モリタ
- 森本　正二
- 森本　ふみ子
- 山岡　惣一
- 弥生会

# 2012年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ http://www5.ocn.ne.jp/~jdm をご覧下さい。

## 日　程

| ヴァヌアツ共和国 | | |
|---|---|---|
| チーム名 | 日　程 | 締切日 |
| 7月チーム（タンナ島） | 2011年　7月　7日～　7月 16 日 | 2011年　6月11日 |

| フィリピン共和国 | | |
|---|---|---|
| チーム名 | 日　程 | 締切日 |
| 11 月チーム | 2011年11月 21 日～11月25 日 | 2011年10月 22 日 |
| 2 月チーム | 2012年　2月　6 日～　2月 11 日 | 2011年12月28 日 |

## 募集人員

| | |
|---|---|
| 歯科医師 | 約3名前後 |
| 歯科技工士 | 約3名前後 |
| 歯科衛生士 | 約3名前後 |
| ボランティア | 約3名前後 |

## 参加費用参考

| | ヴァヌアツ共和国 | フィリピン共和国 |
|---|---|---|
| 科　目 | 金　額 | 金　額 |
| 航空運賃　＊1 | 約20 万円前後 | 約8万円前後 |
| 滞在費 | 個人負担なし | 個人負担なし |
| 海外傷害旅行保険代 | 約1万円(任意) | 約7千円(任意) |
| ユニフォーム代　＊2 | 3千円 | 3千円 |
| 合計 | 約 21 万円前後 | 約 9 万円前後 |

＊1:航空運賃は時期により変動します

＊2:持ってない方のみ

# 理事紹介

代表理事　沢田　宗久
沢田歯科
院長　歯科医師

副代表理事　栗山　雅行
ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ（株）
代表取締役

理　事　吉竹　弘行
吉竹歯科
院長　歯科医師

理　事　河内　光明
沢田歯科
歯科技工士

理　事　田中　良明
上がり口歯科医院
歯科技工士

理　事　小西　あゆみ
大谷歯科
歯科衛生士

理　事　森田　朋美
広川歯科医院
歯科衛生士

理　事　上崎　秀美
上崎歯科
院長　歯科医師

理　事　吉井　照子
日本放送協会
大阪放送局

理　事　富田　真仁
富田まひと歯科
院長　歯科医師

理　事　島　猛
上がり口歯科医院
歯科技工士

フィリピン共和国　カオハガン島

2011年　6月　15日　発行
発行者　NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション
〒542－0085
大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28　心斎橋コアビル　沢田歯科内
TEL：06－6252－0118　FAX：06－6641-5572
URL：http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html
E-mail：jdm@themis.ocn.ne.jp
＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。